年間指導・評価計画（シラバス）

―２０２３年度―

学校法人　三重徳風学園

徳風高等学校　徳風技能専門学校

科目名	対象コース	単位数	担当教員
現代の国語	総合･ドッグケア･パソコン	2	藤瀧　恭輔

科目の目標	社会人として必要な言語能力や知識を身につける。 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。 伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
使用教科書	新編現代の国語（東京書籍）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	学習のガイダンス 「こそそめスープ」	･一年間の授業の取り組み方について理解する。･随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方、人それぞれが持つ世界観を知る。	1
5月	「ルリボシカミキリの青」	筆者の体験を読み、自分に当てはめて考える。	
6月	「りんごのほっぺ」「気になるニュースについて話そ	･戦時下の人々の状況と一貫する筆者の思いを読み取る。･情報の伝え方、受け取る際に注意すべきことを知ろう。	5
7月	「水の東西」「評論の読み方」	･「水」をめぐる文化の比較を通し、日本文化について考える。･評論とはどういう文章かを知ろう。	2
8月	夏期休業課題	漢字や語句に関する課題を出し、試験を実施する。	
9月	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	身近な植物の観察、成果から提示された、新しい視点について理解する。	
10月	「無彩の色」	色についての筆者の価値観と主張を読み取る。	3
11月	「鍋洗いの日々」「憧れの職業について調べ、整理してまとめよう」	･筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。･進路について考えるきっかけをつくる。	4
12月	「異なる種類の文章を読み比べよう」「グラフや写真の読み取り方」	･誰に向けて書いているのか、書かれた目的によって、全く違う文章になることに気づこう。･グラフから情報等を的確に読み取る力をつけよう。	
1月	「森で染める人」	自然や社会で生きながら働く筆者の思いを読み取り、働くことについて考える。	4
2月	「真の自立とは」	「自立」について自分の考えを持ち、視野を広げる。	6
3月	単位認定試験　試験返却　一年間のまとめ	一年間を振り返り、感想文等を書く。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を徹底的に行います。課題を出しますが、期日を守らない場合、特別な事情がない限り、一切受け付けません。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
公共	総合･ドッグケア･パソコン	2	平井　晋太郎

科目の目標	社会との関わりを意識した「主題」や「問い」を 設け，追究したり探究したりする学習により、主体的に取り組む態度を養う。また、社会に参画する際に選択･判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的原理の習得を目指す。
使用教科書	『公共』東京書籍

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	公共的な空間をつくる私たち	青年期の特徴と発達課題，及び個人･社会･伝統と文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。	1
5月	公共的な空間における人間としての在り方生き方	現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。	1
6月	公共的な空間における基本的原理	公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解する。	1
7月	民主政治と私たち	政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解する。	2
8月	夏季休業中課題―わがまちレポート―	住んでいる地域の事柄について、1つテーマを設定して、探求の活動の1つとして実施。	
9月	法の働きと私たち	法や規範の意義と役割、法の成立と適用，市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。	3
10月	経済社会で生きる私たち	日本国憲法は国の最高法規であることを理解し、また憲法の成立過程や制定の意義を学習する。	3･4
11月	私たちの職業生活	資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。	4･5
12月	追究しよう国際社会における責任ある行動とは何か？	主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について、ルワンダ内戦、コソボ紛争を例に理解する。	6
1月	現代の紛争とその影響	現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解する。	6
2月	平和な国際社会に向けて	平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について、実際の事象とも関連させながら理解する。	6
3月	グローバル化する国際経済	グローバル化する国際経済の現状と課題について、貿易と国際収支、外国為替と国際通貨制度、国際経済秩序と動き、地域統合の動向、新興国の動き、南北問題の背景と推移、人口･食料問題などの観点から理解する。	6

学習評価

評価の観点 ＼ 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業には教科書･副教材･公共ワークシート
	筆記用具を必ず持参してください。
	いま起こっている社会的事象について興味関心を持つようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
科学と人間生活	総合・ドッグケア・パソコン	2	朝熊　天章
科目の目標	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。		
使用教科書	東京書籍「科学と人間生活」(科人701)		

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生命の科学 1章　微生物とその利用	・微生物には，どのような種類があり，それぞれどのような特徴があるのを知る。 ・微生物は，生態系のなかでどのような役割があり，炭素の循環にどのようにかかわっているのを知る。 ・微生物は，生態系のなかの窒素とどのようにかかわっているのかを知る。 ・水中の微生物は，分解者としてどのような役割を果たしているのを考える。 ・微生物の存在や特徴はどのようにして解明されてきたのかを知る。 ・発酵食品にはどのようものがあり，微生物がどのようにかかわっているのかを調べ，理解する。 ・酵母と乳酸菌による発酵とは，どのような反応なのかを調べ，理解する。 ・微生物は，医薬品の製造にどのように役立っているのかを知る。	No.1
5月 6月	2章　ヒトの生命現象	・眼から入った情報は，どのように脳へと伝わり，視覚が生じるのかを知る。 ・眼には，どのようなはたらきがあるのか。また，太陽の光は生活にどのようにかかわっているのかを知る。 ・食物として取り入れた炭水化物は，体内でどのように利用されているのかを知る。 ・血糖濃度を一定の範囲内に維持するために，体内にはどのようなしくみがあるのかを知る。 ・私たちは，どのようにして病原体から体を守っているのかを知る。 ・予防接種はどのような方法で感染症を予防するのか。 また，アレルギーとはどのようなものを知る。 ・遺伝子の本体であるDNAとは，どのようなものなのかを知る。 ・ヒトの体内では，どのようにしてタンパク質がつくられているのかを知る。 ・ヒトの体内には，どのようなタンパク質があり，それぞれどのようなはたらきをもつのかを知る。	No.2
7月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・ガラスなどの資源を再利用するためには，どのような方法があるのかを知る。 ・金属と非金属との違いは，金属の原子の構造とどのように関係しているのかを知る。 ・異なる種類の金属を区別するには，どのような性質を調べればよいのかを知る。 ・金属は，鉱石からどのようにして取り出され，利用されているのかを知る。 ・金属の再生利用(リサイクル)では，どのような方法が有効かを考える。	No.3
8月			
9月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・プラスチックとはどのような物質で，どのような種類や性質の違いがあるのかを知る。 ・高分子化合物のでき方を知る。 ・プラスチックを再生利用(リサイクル)するには，どのような方法があるのかを調べる。	No.3
10月	2章　衣料と食品	・日常生活のなかで，使われている繊維には，どのような種類があるのか調べる。 ・天然繊維には，どのような種類があるのかを調べる。 ・合成繊維には，種類によってどのような特徴があるのかを知る。 ・体に必要な栄養素には，どのようなはたらきをもった物質があるのかを知る。 ・脂質(油脂)とは，どのような物質なのかを知る。 ・炭水化物とは，どのような物質なのかを知る。 ・タンパク質とは，どのような物質なのかを知る。	No.3
11月 12月	3編　光や熱の科学 1章　光の性質とその利用	・光は，物質の境界面でどのように進むのかを知る。 ・光と波の性質には，どのような関係があるのかを知る。 ・水面の波と波が出合うと，どのような現象が見られるのか考える。 ・光のスペクトルは，光源によって，どのような違いが見られるのかを知る。 ・私たちは，どのように色を認識しているのか。また，物体の色は，何によって決まるのかを知る。 ・電磁波とは，どのようなものなのかを知る。 ・電磁波の利用について知る。	No.4
1月	2章　熱の性質とその利用	・物質の温度と原子や分子の動きには，どのような関係があるのかを知る。 ・温度の異なる物体どうしを接触させたとき，どのようなことが起こるのかを知る。 ・熱伝導，対流，放射は，それぞれどのようなしくみで熱が伝わるのかを知る。 ・エネルギーについて知る。 ・エネルギーの有効利用についてどのような事例があるか調べる。	No.5
2月 3月	4編　宇宙や地球の科学 1章　太陽と地球 2章　自然景観と自然災害	・太陽や月の日周運動について理解を深める。 ・潮位の変化について知る。 ・地球が受け取る太陽の放射エネルギーは，大気や気候にどのような影響を与えているのかを知る。 ・緯度ごとの熱のつり合いの異なりが，大気や海洋にどのような影響を与えるのかを知る。 ・四季の変化や地球規模の気象は，私たちの生活にどのように関係しているのかを知る。 ・地球規模の地形は，どのようにしてできるのかを知る。 ・断層運動がつくる地形について知る。 ・火山活動につて知る。 ・太陽エネルギーと地形や景観の関係について知る。 ・自然災害と自然現象の違いについて知る。	No.6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動，発言，発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート，作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト，小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
体育	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	郷司　竜太

科目の目標	運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正･協力･責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養う。
使用教科書	現代高等保健体育 （大修館書店）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	集団行動 体力テスト バスケットボール	集団の約束やきまりを守って行動する。機敏的確に行動する。互いに協力して自己責任を果たす。 自分自身の体力･運動能力の現状を確かめる。結果を分析し、改善を目指す。 バスケットボールの基礎･基本の技術を理解し、バスケットボールの楽しさを経験する。	1,2
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	卓球 ソフトボール	ラリーを楽しむ。いろいろなポジションでのプレイを体験する。 キャッチボール、トスバッティングなどゲームに必要な技術の習得。三角野球を通じて野球型ゲームの特性を理解する。	
10月			
11月			
12月			
1月	サッカー	インサイドキック、インフロントキックなどパスをつなぐための技術を習得する。	
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	50	25	100	30	100	20	75
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	50	25	―	―	―	―	25
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	怪我をしないように、しっかりと体をほぐし、危険行為がないよう、注意をはかる。 実際に練習を行ってみて「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を考慮し、対戦相手に応じた作戦を立案する。 ルール(方針)を的確に理解する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	総合･ドッグケア･パソコン	1	郷司　竜太

科目の目標	現代社会は生活習が豊かになった一方で、生活習慣病や薬物乱用、精神疾患など健康に関わる多様な問題が多様に発生してきた。時代の流れの中で、健康のとらえ方や社会に求められていることなど現代社会で問題視されている健康の考え方について学習する。
使用教科書	大修館　「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	健康の考え方について例をあげて説明できる。 健康水準の変化とその背景について説明できる。	1
5月	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	生活習慣病の種類と要因を説明できる。 がんの種類や原因について説明できる。	
6月	がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康	がんのおもな治療について説明できる。 健康と運動の関係について説明できる。 健康と食事の関係について説明できる。	
7月	休養･睡眠と健康 喫煙と健康	健康と休養の関係を説明できる。 喫煙やまわりに起こる害について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	飲酒と健康	飲酒と健康への影響を説明できる。	2
10月	精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症	精神疾患の予防方法について説明できる。 精神疾患の治療について説明できる。 感染症とは何か説明できる。	
11月	感染症の予防 性感染症･エイズとその予防	感染の3原則を説明できる。 性感染症･エイズなどについて説明できる。	3
12月	健康に関する意思決定･行動選択 健康に関する環境づくり	意思決定･行動選択を説明できる。 社会環境の健康影響について説明できる。	
1月	事故の現状と発生原因 安全な社会の形成	事故と被害の実態について説明できる。 安全のための行動について説明できる。	
2月	交通における安全 応急手当の意義とその基本	交通事故における責任について説明できる。 応急手当の意義について説明できる。	
3月	日常的な応急手当 心肺蘇生法	日常的なけがや熱中症について説明できる。 心肺祖施法をおこなうことができる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
音楽Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	新谷　麻衣

科目の目標	教科書の歌をはじめ現在ポップスで扱われている曲など生徒が興味のある音楽などを用いての混声合唱を行う。また曲の構成を考える力を身につけるための楽典、音楽鑑賞をと幅広く取り入れ、興味･関心をより高めていきたい
使用教科書	『音楽Ⅰ　Tutti』教育出版

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	音楽の流れ 校歌 世界に一つだけの花 鑑賞	学校の校歌を始めとして歌、鑑賞、楽典の3つをできるようにする 『世界に一つだけの花』では上と下に分かれてパートの練習を行い、2部合唱構成を図る。	
5月	校歌 世界に一つだけの花 上を向いて歩こう 少年時代 楽典 鑑賞	校歌の1番を中間試験において行う。『上を向いて歩こう』、『少年時代』ではパートの練習を行う。 楽典では音符の読み方、種類などを学ぶ。	1
6月	上を向いて歩こう 少年時代 楽典 鑑賞	歌唱はパート練習と合わせ(表現含む) 楽典ではト音･ヘ音記号の音階、音符の読み方①	2
7月	上を向いて歩こう 少年時代 楽典 鑑賞	1学期のまとめとして歌で『上を向いて歩こう』パート分けの歌唱試験、 楽典　1学期に実施した配布プリントより学期末試験	
8月			
9月	ふるさと　椰子の実 楽典 鑑賞	歌唱『ふるさと』『椰子の実』を導入。 作曲概論で4分音符だけでなく、8分音符を導入	3
10月	Santa Lucia Caro mio ben 楽典 鑑賞	民謡曲『Santa Lucia』『Caro mio ben』を導入。楽典では休符を導入し、1小節を内に入る音符の数などを把握する	4
11月	Santa Lucia Caro mio ben 楽典 鑑賞	音楽用語などの勉強も取り入れながら、演奏の向上心を高め、2学期のまとめとして理解を確認する	5
12月	Santa Lucia Caro mio ben 楽典 鑑賞	2学期のまとめとして歌は『Caro mio ben』をイタリア語で歌う。 楽典は4分音符8分音符だけにとどまらず16分音符など複雑なリズムにも対応できるようにする	
1月	O sole mio Heidenroslein Beatutiful days 楽典 鑑賞	3学期から歌で『O sole mio』『Heidenroslein』を導入。 楽典は拍数の振り分けがきちんとでき、音符･休符の種類によって1拍分の違いを理解させる	6
2月	Heidenroslein、おおシャンゼリゼ Beatutiful days 楽典 鑑賞 人権学習	3学期のまとめとして歌で『Heidenroslein』、楽典では1学期からの内容を総まとめとして筆記試験を行う。	
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	歌唱練習のパート練習を指導している間、待機中のパート対象者には学習プリントを配布しますので並行で実施となります。 また、教科書以外に「楽典」の学習プリントを用意します。配布する学習プリントは学期末の筆記試験の試験範囲となるので各自でプリントをまとめておくこと。(筆記試験前に試験対策学習プリントを配布します)

科目名	対象コース	単位数	担当教員
英語コミュニケーションⅠ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	佐々木　光久

科目の目標	外国語を通じて、言語や文化の違いに対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的なコミュニケーション能力を高める。
使用教科書	『All Aboard! English Communication Ⅰ』(東京書籍)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	warm-up1 アルファベット	アルファベットとローマ字の用法を習得する。	1
5月	warm-up1 アルファベット pre-Lesson1 My Name Is Ito Neko	アルファベットとローマ字の用法を習得する。 be動詞の用法を習得する。	2
6月	pre-Lesson1 My Name Is Ito Neko pre-Lesson2 I Like Junk Food	be動詞の用法を習得する。 一般動詞の用法を習得する。	
7月	pre-Lesson2 I Like Junk Food	一般動詞の用法を習得する。	3
8月			
9月	Lesson1 Breakfast around the World	過去形の用法を習得する。	
10月	Lesson1 Breakfast around the World Lesson2 Australia's Cute Quokka	過去形の用法を習得する。 進行形の用法を習得する。	
11月	Lesson2 Australia's Cute Quokka	進行形の用法を習得する。	
12月	Lesson3 A Train Driver in Sanriku	助動詞(can,will)の用法を習得する。	
1月	Lesson3 A Train Driver in Sanriku Lesson4 A Miracle Mirror	助動詞(can,will)の用法を習得する。 to不定詞の用法を習得する。	
2月	Lesson4 A Miracle Mirror	to不定詞の用法を習得する。	4
3月	Lesson5 Learning from the sea	動名詞の用法を習得する。	5

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	携帯･飲食･私語･居眠り･暴言など授業を乱す行為は厳禁。 必要に応じて中学レベルの単語･文法･会話表現のプリントを使用することもある。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン	2	神谷　卓敬

科目の目標	情報に関する科学的な見方･考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見･解決を行う学習活動を通して，問題の発見･解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質･能力を養う。
使用教科書	新編情報Ⅰ【情Ⅰ701】

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1 情報とメディアの特性[p.6] 表現メディアの違いによるメリットとデメリット 2 問題解決の流れ[p.8] 3 発想法[p.10]	･情報の特性から，情報とは何か理解する。 ･さまざまなメディアの特性を理解する。 ･問題を発見･解決するための一連の流れを理解する。 ･問題の発見･解決に情報技術が活用できることを理解する。 ･問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	
5月	4 情報モラル[p.12] 5 個人情報の流出[p.14] 6 傷つかない傷つけないために[p.16] 7 著作権[p.18]	･情報社会で生活するための情報モラルを理解する。 ･情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。 ･個人情報とはどのようなものか理解する。 ･SNSを通して個人情報が流出･特定される仕組みを学習する。 ･SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ･ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。 ･著作権について理解する。 ･引用の仕方を理解する。	1
6月	8 情報技術の発展[p.20] 9 情報化と私たちの生活の変化[p.22] 10 よりよい情報社会へ[p.24]	･画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ･人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ･情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ･サイバー犯罪などの問題について学習する。	2
7月	18 情報デザイン[p.48] 19 ユニバーサルデザイン[p.50] 20 情報デザインの流れ[p.52]	･情報デザインとは何か学習する。 ･情報デザインの方法である抽象化，可視化，構造化を理解する。 ･学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ･情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ･ユニバーサルデザインについて学習する。 ･ユーザインタフェースについて学習する。 ･情報デザインのプロセスを理解する。 ･情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ･デザイン思考に基づいた分析を理解する。	3
8月			
9月	表計算ソフトウェアの操作[p.152]	･表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ･表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ･表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ･ディレクトリやファイルの操作について学習する。	4
10月	表計算ソフトウェアの応用編	･関数計算を理解する。 ･複雑な表を作成できるようになる。	
11月	21 コンピュータとは何か[p.62] 22 ソフトウェアの仕組み[p.64] 23 演算の仕組みとコンピュータの限界[p.66]	･コンピュータの基本構成について理解する。 ･ハードウェアとソフトウェアについて理解する。 ･プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ･コンピュータの演算の仕方について学習する。 ･コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。	5
12月 1月	60 データ分析の流れ[p.144]	･パワーポイント操作を理解する。 ･プレゼンテーション方法を理解する。 ･プレゼンテーションの流れ･手順を理解する。	6
2月	プレゼンテーションの発表	･プレゼンテーションの発表を通して、話し手と聞	
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	―	―	100	20	20
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	80	24	―	―	34
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	特に問題解決と，その為のコンピュータの利用の手順を身に付けてほしい。 理論編は授業をよく聴き，配布するプリントをしっかりと纏めておくこと。 定期考査毎に配布するプリントを提出させテストとともに総合的に評価する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報Ⅰ	日本語	2	神谷　卓敬

科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。
使用教科書	新編情報Ⅰ【情Ⅰ701】

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1 情報とメディアの特性[p.6] 表現メディアの違いによるメリットとデメリット 2 問題解決の流れ[p.8] 3 発想法[p.10]	・情報の特性から，情報とは何か理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。 ・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	
5月	4 情報モラル[p.12] 5 個人情報の流出[p.14] 6 傷つかない傷つけないために[p.16] 7 著作権[p.18]	・情報社会で生活するための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報が流出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ・ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。 ・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。	1
6月	8 情報技術の発展[p.20] 9 情報化と私たちの生活の変化[p.22] 10 よりよい情報社会へ[p.24]	・画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ・サイバー犯罪などの問題について学習する。	2
7月	18 情報デザイン[p.48] 19 ユニバーサルデザイン[p.50] 20 情報デザインの流れ[p.52]	・情報デザインとは何か学習する。 ・情報デザインの方法である抽象化，可視化，構造化を理解する。 ・学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。 ・ユーザインタフェースについて学習する。 ・情報デザインのプロセスを理解する。 ・情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。	3
8月			
9月	表計算ソフトウェアの操作[p.152]	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	4
10月	表計算ソフトウェアの応用編	・関数計算を理解する。 ・複雑な表を作成できるようになる。	
11月	21 コンピュータとは何か[p.62] 22 ソフトウェアの仕組み[p.64] 23 演算の仕組みとコンピュータの限界[p.66]	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。 ・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの演算の仕方について学習する。 ・コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。	5
12月 1月	60 データ分析の流れ[p.144]	・パワーポイント操作を理解する。 ・プレゼンテーション方法を理解する。 ・プレゼンテーションの流れ・手順を理解する。	6
2月	プレゼンテーションの発表	・プレゼンテーションの発表を通して、話し手と聞	
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	―	―	100	20	20
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	80	24	―	―	34
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	特に問題解決と，その為のコンピュータの利用の手順を身に付けてほしい。 理論編は授業をよく聴き，配布するプリントをしっかりと纏めておくこと。 定期考査毎に配布するプリントを提出させテストとともに総合的に評価する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	神谷　卓敬

科目の目標	自立と社会参加に必要な知識･技能と自ら考え行動する自主的･主体的な態度を身に付ける。
使用教科書	公文教材（数学）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	公文教材での学習	自主的･主体的な学習態度を身に付ける。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	公文教材での学習	自主的･主体的な学習態度を身に付ける。	
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

基準表（別途基準による）

算定式により得られた数値	評価
90以上	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は十分満足できる状況であった。
80以上90未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度はおおむね満足できる状況であった。
80未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は努力を要する状況であった。

履修にあたっての留意点	レベルアップのためにはたくさん枚数をこなすことが必要です。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	1	神谷　卓敬

科目の目標	自立と社会参加に必要な知識･技能と自ら考え行動する自主的･主体的な態度を身に付ける。
使用教科書	公文教材（数学）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	公文教材での学習	自主的･主体的な学習態度を身に付ける。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	公文教材での学習	自主的･主体的な学習態度を身に付ける。	
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

基準表（別途基準による）

算定式により得られた数値	評価
90以上	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は十分満足できる状況であった。
80以上90未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度はおおむね満足できる状況であった。
80未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は努力を要する状況であった。

履修にあたっての留意点	レベルアップのためにはたくさん枚数をこなすことが必要です。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合的な探究の時間	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	神谷　卓敬

科目の目標	①横断的･総合的な学習 創意工夫を生かした教育活動を行う。 人権理解、国際理解、情報、環境、福祉、健康などの学習活動。 ②地域や学校、生徒の実態、生徒の興味、関心を生かした教育活動。 地域の人々の協力も得つつ、地域の教材や学習環境の積極的などについて工夫する。 ③問題(課題)解決的学習、体験的学習(社会見学) 学び方やものの考え方を身につけ、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。 ④全校一体の学習活動 全教師、全学年生徒が一体となり学習に取り組む。
使用教科書	

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	人権学習 ネットワークマナー	･ネットワーク上の言葉使いや友達との接し方などを学ぶ ･個人情報･著作権･肖像権の大切さについて学ぶ	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	人権学習 盲導犬について知ろう	･目の不自由な方と盲導犬の関係性について学ぶ ･盲導犬の歴史、訓練、生活について学ぶ	1
10月			
11月			
12月			
1月	人権学習 亀山ボランティア活動	･ボランティア活動の大切さを学ぶ ･地域貢献の大切さを学ぶ	
2月			
3月			

学習評価

学習活動	観点	評価
		教科のように試験の成績等によって数値的に評価することはせず、学習の状況や成果を文章表記によって記録する。

履修にあたっての留意点	･知識を得ることにより、逆に差別をすることないように留意する。 ･自分の価値観を押しつけることがないように留意する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
言語文化	総合･ドッグケア･パソコン	2	藤瀧　恭輔

科目の目標	現代文(随筆･詩歌･小説)、古文(随筆･詩歌･物語･紀行)、漢文(漢詩･論語･史話)を学び、　　ものの見方や考え方を豊かにする
使用教科書	新編言語文化 （東京書籍）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	さくらさくら(随筆)	日本独特の桜に対する感性について　　理解する	1
5月	短歌･俳句･詩	独自の特徴と表現効果を理解する	2
6月	羅生門、夢十夜、デューク(小説)	羅生門、夢十夜、デューク(小説)	3
7月	学期末試験　学期末試験の返却		
8月			
9月	羅生門、夢十夜、デューク(小説)	羅生門、夢十夜、デューク(小説)	3
10月	徒然草、枕草子、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集、梁塵秘抄、閑吟集	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	4
11月	徒然草、枕草子、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集、梁塵秘抄、閑吟集	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	4
12月	故事成語、絶句と律詩、論語、史話	表現や構成に注目しながら作品に込められた思いを読み取る	5
1月	故事成語、絶句と律詩、論語、史話	漢文読解に慣れる	6
2月	故事成語、絶句と律詩、論語、史話	ものの見方や考え方を豊かにする	6
3月	学期末試験　学期末試験の返却　1年間のまとめ	1年間を振り返り、感想文等を書く	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	･現代文や古文、漢文と幅広く学習することを心がけてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
現代の国語	日本語	2	藤瀧　恭輔

科目の目標	社会人として必要な言語能力や知識を身につける。 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。 伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
使用教科書	新編現代の国語（東京書籍）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	学習のガイダンス 「こそそめスープ」	・一年間の授業の取り組み方について理解する。・随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方、人それぞれが持つ世界観を知る。	1
5月	「ルリボシカミキリの青」	筆者の体験を読み、自分に当てはめて考える。	
6月	「りんごのほっぺ」「気になるニュースについて話そ	・戦時下の人々の状況と一貫する筆者の思いを読み取る。・情報の伝え方、受け取る際に注意すべきことを知ろう。	5
7月	「水の東西」「評論の読み方」	・「水」をめぐる文化の比較を通し、日本文化について考える。・評論とはどういう文章かを知ろう。	2
8月	夏期休業課題	漢字や語句に関する課題を出し、試験を実施する。	
9月	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	身近な植物の観察、成果から提示された、新しい視点について理解する。	
10月	「無彩の色」	色についての筆者の価値観と主張を読み取る。	3
11月	「鍋洗いの日々」「憧れの職業について調べ、整理してまとめよう」	・筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。・進路について考えるきっかけをつくる。	4
12月	「異なる種類の文章を読み比べよう」「グラフや写真の読み取り方」	・誰に向けて書いているのか、書かれた目的によって、全く違う文章になることに気づこう。・グラフから情報等を的確に読み取る力をつけよう。	
1月	「森で染める人」	自然や社会で生きながら働く筆者の思いを読み取り、働くことについて考える。	4
2月	「真の自立とは」	「自立」について自分の考えを持ち、視野を広げる。	6
3月	単位認定試験　試験返却　一年間のまとめ	一年間を振り返り、感想文等を書く。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を徹底的に行います。課題を出しますが、期日を守らない場合、特別な事情がない限り、一切受け付けません。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
地理総合	総合･ドッグケア･パソコン	2	伊藤　直彦

科目の目標	社会的事象の地理的な見方･考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動 を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的 な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質･能力を育成する。
使用教科書	高等学校　新地理総合（帝国書院）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	地図でとらえる現代世界 国際理解と国際協力 P6～94	･地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ･現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。　･世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	1～3
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月	持続可能な地域づくりと私たち P96～227	･さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し，読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。　･生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	4～7
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書･レポート･筆記用具を必ず持参してください。 レポート忘れは、実費購入となります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
地理総合	日本語	2	伊藤　直彦

科目の目標	社会的事象の地理的な見方･考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動 を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的 な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質･能力を育成する。
使用教科書	高等学校　新地理総合（帝国書院）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	地図でとらえる現代世界 国際理解と国際協力 P6～94	･地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ･現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。　･世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	1～3
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月	持続可能な地域づくりと私たち P96～227	･さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し，読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。　･生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	4～7
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書･レポート･筆記用具を必ず持参してください。 レポート忘れは、実費購入となります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
公共	日本語	2	伊藤　直彦

科目の目標	現代社会で求められる私たちの社会を私たちの力でつくりあげる主体的で積極的な「公共」への関わりを学びます。
使用教科書	東京書籍　公共（東書　公共701）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	○公共的な空間をつくる私たち	○青年期と自己形成を理解する	1
5月	○公共的な空間をつくる私たち	○社会的な存在として人間の意義を学ぶ	1
6月	○公共的な空間における基本的原理	○功利主義と幸福の原理を学ぶ	1
7月	○公共的な空間における基本的原理	○近代政治の原理と民主主義を理解する	2
8月			
9月	○民主政治と私たち	○日本国憲法の基本原理を理解する	2
10月	○法の働きと私たち	○法や規範の意義について学ぶ	3
11月	○法の働きと私たち	○国民の司法参加について学ぶ	3
12月	○経済社会で生きる私たち	○現代の経済と市場について学ぶ	4
1月	○私たちの職業生活	○国際社会のルールとしくみを学ぶ	5
2月	○国際社会のなかで生きる私たち	○国際平和への課題を考える	5
3月	○持続可能な社会づくりに参画するために	○身近な地域の課題を考える	6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業には教科書・副教材・公共ワークシート
	筆記用具を必ず持参してください。
	いま起こっている社会的事象について興味関心を持つようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
数学Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	3	西村　康成

科目の目標	数学的な考え方を理解し、基本的な事項を確実に習得する。
使用教科書	『新 数学Ⅰ』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	プレリュード	中学校内容の復習をし、基本的な代数学の性質を理解する。	
5月	プレリュード	中学校内容の復習をし、基本的な代数学の性質を理解する。	
6月	第1章　数と式 1節　文字と式 2節　実数	4月5月の内容を復習し、高等学校における代数学の計算に必要な知識を身に着ける。	1, 2
7月	第1章　数と式 3節　方程式と不等式	基本的な方程式の計算を復習し、不等式や2次方程式の応用などを計算できるようになる。	3, 4
8月			
9月	第2章　2次関数 1節　2次関数とそのグラフ	関数とはなにかを理解し、点を取ることで関数をグラフで表せるようになる。また、2次関数の式を平方完成し頂点や軸の値を求められるようになる。	5
10月	第2章　2次関数 2節　2次関数の値の変化	2次関数の軸を用いて最大値･最小値が求められるようになる。	6
11月	3章　三角比 1節　鋭角の三角比	三角比とは何かを理解し、正弦、余弦、正接の値を求められるようになる。また、三角比の相互関係を理解し計算できるようになる。	7
12月	3章　三角比 2節　三角比の応用	正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺や角、三角形の面積などを求められるようになる。	8
1月	5章　データの分析 1節　データの分析 度数分布、代表値、四分位数	データの集まりから分布をまとめ、各種代表値を求められるようになる。	9
2月	5章　データの分析 1節　データの分析 分散、標準偏差、相関係数	2つのデータの集まりからそれぞれのデータの散らばり具合や相関を調べられるようになる。	
3月	単位認定試験		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	プリント学習を予定していますが、教科書や副教材も使用しますので、毎回教科書と副教材を持参してください。 また、年間の学習計画は予定であり、学習時期や内容を変更する場合があります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
生物基礎	総合･ドッグケア	2	多賀　敏正

科目の目標	･日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ･観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ･生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。
使用教科書	東京書籍「新編生物基礎」(生基702)，

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生物の特徴 1章　生き物の多様性と共通性	･地球上に多様な種がみられるのは，なぜかを考える。 ･生物は多様であるが，共通性があるのかを知る。 ･生物の細胞は，どのような特徴をもっているのかを知る。	No．1
5月	2章　生物とエネルギー	･生命活動に必要なエネルギーは，どのようにして得られるのかを知る。 ･呼吸や光合成では，どのようにエネルギーが利用されているかを考える。 ･酵素とはどのような物質なのかを知る。	
6月	2編　遺伝子とそのはたらき 1章　遺伝情報とDNA	･生物の形質は，何によって決まるのを知る。 ･DNAは，どのような構造をしているのかを知る。 ･DNAはどのようにして増えるのかを知る。	No．2
7月			
8月			
9月	2章　遺伝情報とタンパク質の合成	･タンパク質にはどのような役割があるのを考える。 ･タンパク質は，DNAからどのようにしてつくられるのを知る。 ･異なる種類の細胞ではたらいている遺伝子は，すべて同じなのを考える。	No．2
10月	3編　ヒトの体の調節 1章ヒトの体を調節するしくみ	･さまざまな環境に対応するために，ヒトの体にはどのような機能が備わっているのかを考え、知る。 ･神経系は，体内環境の維持(いじ)にどのようにかかわっているのかを考える。 ･内分泌系による情報伝達は，体内環境の維持にどのようにかかわっているのかを知る。 ･血糖濃度はどのようなしくみで調節されているのかを知る。	No．3
11月	2章　免疫のはたらき	･ヒトの体はどのようなしくみによって病原体から守られているのかを知る。 ･免疫のしくみを利用することで，どのようにして病気を予防できるのを考える。 ･免疫のしくみが過敏に反応したり，機能しなくなったりすると，ヒトの体にはどのような影響が出るのかを知る。	No．4
12月	4編　生物の多様性と生態系 1章　生殖と遷移	･植生によって環境はどのように変わるのかを考える。 ･時間の経過とともに，植生はどのように変化するのか考える。 ･遷移の結果，世界にはどのような植生が成立しているのを知る。	No．5
1月			
2月	2章　生態系と生物の多様性	･多様な生物と環境にはどのような関係がみられるのかを考える。 ･捕食･被食の関係性と生物の多様性とはどのように関連しているのを考える。 ･人間活動は，生態系にどのような影響を及ぼしているのかを考える。 ･なぜ，多様な生物を保全することが大切なのかを考える。	No．6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	「生物の特徴」「遺伝子とそのはたらき」「ヒトの体の調節」「生物の多様性と生態系」という4つの分野に大きく分けて学習する中で，生物のもたらす豊かさや，生命活動の複雑さ，目の前の自然の成り立ちなどについて，さまざまなところに好奇心をもって学習を進める。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
科学と人間生活	日本語	2	朝熊　天章
科目の目標	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。		
使用教科書	東京書籍「科学と人間生活」(科人701)		

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生命の科学 1章　微生物とその利用	・微生物には，どのような種類があり，それぞれどのような特徴があるのを知る。 ・微生物は，生態系のなかでどのような役割があり，炭素の循環にどのようにかかわっているのを知る。 ・微生物は，生態系のなかの窒素とどのようにかかわっているのかを知る。 ・水中の微生物は，分解者としてどのような役割を果たしているのを考える。 ・微生物の存在や特徴はどのようにして解明されてきたのかを知る。 ・発酵食品にはどのようなものがあり，微生物がどのようにかかわっているのかを調べ，理解する。 ・酵母と乳酸菌による発酵とは，どのような反応なのかを調べ，理解する。 ・微生物は，医薬品の製造にどのように役立っているのかを知る。	No.1
5月 6月	2章　ヒトの生命現象	・眼から入った情報は，どのように脳へと伝わり，視覚が生じるのかを知る。 ・眼には，どのようなはたらきがあるのか。また，太陽の光は生活にどのようにかかわっているのかを知る。 ・食物として取り入れた炭水化物は，体内でどのように利用されているのかを知る。 ・血糖濃度を一定の範囲内に維持するために，体内にはどのようなしくみがあるのかを知る。 ・私たちは，どのようにして病原体から体を守っているのかを知る。 ・予防接種はどのような方法で感染症を予防するのか。また，アレルギーとはどのようなものを知る。 ・遺伝子の本体であるDNAとは，どのようなものなのかを知る。 ・ヒトの体内では，どのようにしてタンパク質がつくられているのかを知る。 ・ヒトの体内には，どのようなタンパク質があり，それぞれどのようなはたらきをもつのかを知る。	No.2
7月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・ガラスなどの資源を再利用するためには，どのような方法があるのかを知る。 ・金属と非金属との違いは，金属の原子の構造とどのように関係しているのかを知る。 ・異なる種類の金属を区別するには，どのような性質を調べればよいのかを知る。 ・金属は，鉱石からどのようにして取り出され，利用されているのかを知る。 ・金属の再生利用(リサイクル)では，どのような方法が有効かを考える。	No.3
8月			
9月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・プラスチックとはどのような物質で，どのような種類や性質の違いがあるのかを知る。 ・高分子化合物のでき方を知る。 ・プラスチックを再生利用(リサイクル)するには，どのような方法があるのかを調べる。	No.3
10月	2章　衣料と食品	・日常生活のなかで，使われている繊維には，どのような種類があるのか調べる。 ・天然繊維には，どのような種類があるのかを調べる。 ・合成繊維には，種類によってどのような特徴があるのかを知る。 ・体に必要な栄養素には，どのようなはたらきをもった物質があるのかを知る。 ・脂質(油脂)とは，どのような物質なのかを知る。 ・炭水化物とは，どのような物質なのかを知る。 ・タンパク質とは，どのような物質なのかを知る。	No.3
11月 12月	3編　光や熱の科学 1章　光の性質とその利用	・光は，物質の境界面でどのように進むのかを知る。 ・光と波の性質には，どのような関係があるのかを知る。 ・水面の波と波が出合うと，どのような現象が見られるのかを考える。 ・光のスペクトルは，光源によって，どのような違いが見られるのかを知る。 ・私たちは，どのように色を認識しているのか。また，物体の色は，何によって決まるのかを知る。 ・電磁波とは，どのようなものなのかを知る。 ・電磁波の利用について知る。	No.4
1月	2章　熱の性質とその利用	・物質の温度と原子や分子の動きには，どのような関係があるのかを知る。 ・温度の異なる物体どうしを接触させたとき，どのようなことが起こるのかを知る。 ・熱伝導，対流，放射は，それぞれどのようなしくみで熱が伝わるのかを知る。 ・エネルギーについて知る。 ・エネルギーの有効利用についてどのような事例があるか調べる。	No.5
2月 3月	4編　宇宙や地球の科学 1章　太陽と地球 2章　自然景観と自然災害	・太陽や月の日周運動について理解を深める。 ・潮位の変化について知る。 ・地球が受け取る太陽の放射エネルギーは，大気や気候にどのような影響を与えているのかを知る。 ・緯度ごとの熱のつり合いの異なりが，大気や海洋にどのような影響を与えるのかを知る。 ・四季の変化や地球規模の気象は，私たちの生活にどのように関係しているのかを知る。 ・地球規模の地形は，どのようにしてできるのかを知る。 ・断層運動がつくる地形について知る。 ・火山活動につて知る。 ・太陽エネルギーと地形や景観の関係について知る。 ・自然災害と自然現象の違いについて知る。	No.6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、協力、協働)	―	―	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
物理基礎	パソコン	2	多賀　敏正

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理･法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書	啓林館「物理基礎」(物基705)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	第1部 物体の運動とエネルギー	主に直線上を動く物体の運動を正確に表す応報を学習する･	1
5月	第1部 物体の運動とエネルギー	物体の運動の基本的な概念や法則を理解し，運動とエネルギーの基礎的な見方や考え方を身につける。	2
6月	第2部 熱	熱に関する現象の基本的な概念や法則を理解し，熱についての基礎的な見方や考え方を身につける。	3
7月	期末試験		
8月			
9月	第3部 波	波に関する現象の基本的な概念や法則を理解し，波についての基礎的な見方や考え方を身につける。	4
10月	第3部 波	波に関する現象の基本的な概念や法則を理解し，波についての基礎的な見方や考え方を身につける。	4
11月	第4部 電気と磁気	電気や磁気に関する現象を観察，実験などを通して探究し，それらの基本的な概念や法則を理解する。	5
12月	期末試験		
1月	第4部 電気と磁気	電気や磁気についての基礎的な見方や考え方を身につける。	6
2月	第5部 物理と私たちの生活	いろいろなエネルギーの特性や利用方法について学習する。	6
3月	学年末試験		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容を理解するために、毎回小プリントをを実施し理解を深めていきますが、テストにも出題しますので、紛失しないようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
体育	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	郷司　竜太

科目の目標	運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正･協力･責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養う。
使用教科書	現代高等保健体育 （大修館書店）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月 5月 6月 7月	･規律訓練 ･体力テスト ･陸上競技 ･バレーボール	･集団行動の基本の集合、整頓、列の増減、方向転換を円滑に行えるようになる。 ･自己の体力を認識し、レベルの推移を理解する。 ･測定では集団行動の学習をいかし、円滑に授業の進行ができるよう全員で協力する。 ･攻撃の組み立てを楽しむ。個々の特徴を生かしたチームづくりに挑戦する。ローテーション方式に慣れて、それぞれの攻守の役割を理解したゲームに発展させる	
8月			
9月 10月 11月 12月	･ソフトボール ･バドミントン ･バスケットボール	･キャッチボール、トスバッティングがスムーズにできる。 ･フライトの特性を理解する。サービスからの返球。攻めの局面と守りの局面を理解し、場面に応じた返球の仕方を工夫する。 ･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。	
1月 2月 3月	･バスケットボール ･卓球	･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。 ･シングルス、ダブルスのゲームを行う。審判法を理解する。	1，2

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	50	25	100	30	100	20	75
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	50	25	―	―	―	―	25
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	･体操服の忘れ物は授業出席点を加えません。 ･カッターシャツや制服の上からの体操服の着用は認めません。 ･ピアス、ネックレス等の装飾品の着用は認めません。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	総合･ドッグケア･パソコン	1	郷司　竜太

科目の目標	肉体的･精神的に大人に近づいてくる高校生の時期から、その段階に応じた健康課題について理解を深める。 人々が健康に生きていくためには、周囲の自然環境や食品に関する健康問題について学習し、理解を深める。
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	ライフステージと健康 思春期と健康	ライフステージと健康の関連について説明できる。 思春期における体の変化を説明できる。	1
5月	性意識と性行動の選択 妊娠･出産と健康	性意識の男女差について説明できる。 妊娠･出産の過程を説明できる。	
6月	避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康	人工妊娠中絶が及ぼす影響を説明できる。 心身の発達と結婚生活のついて説明できる。	
7月	中高年期と健康 働くことと健康	加齢にともなう心身の変化について説明できる。 働くことの意義について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	労働災害と健康 健康的な職業生活	労働災害の種類と健康について説明できる。 余暇の必要性といぎについて説明できる。	2
10月	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康	大気汚染の原因と影響について説明できる。 水質汚濁･土壌汚染について説明できる。	
11月	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備	産業廃棄物による健康被害について説明できる。 ごみの処理の現状や課題について説明できる。	
12月	食品の安全性 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性と健康の関りについて説明できる。 食品の安全性を確保する役割を説明できる。	
1月	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用	保健行政の役割について説明できる。 医療機関の役割について説明できる。	3
2月	医薬品の制度とその活用 さまざまな健康活動や社会的対策	医薬品の正しい説明法について説明できる。 行政による社会的対策について説明できる。	
3月	健康に関する環境づくりと社会参加	健康のための環境づくりについて説明できる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	日本語	1	郷司　竜太

科目の目標	現代社会は生活習が豊かになった一方で、生活習慣病や薬物乱用、精神疾患など健康に関わる多様な問題が多様に発生してきた。時代の流れの中で、健康のとらえ方や社会に求められていることなど現代社会で問題視されている健康の考え方について学習する。
使用教科書	大修館　「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	健康の考え方について例をあげて説明できる。 健康水準の変化とその背景について説明できる。	1
5月	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	生活習慣病の種類と要因を説明できる。 がんの種類や原因について説明できる。	
6月	がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康	がんのおもな治療について説明できる。 健康と運動の関係について説明できる。 健康と食事の関係について説明できる。	
7月	休養・睡眠と健康 喫煙と健康	健康と休養の関係を説明できる。 喫煙やまわりに起こる害について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴	飲酒と健康への影響を説明できる。 薬物乱用が及ぼす影響について説明できる。 精神疾患の例をあげて説明できる。	2
10月	精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症	精神疾患の予防方法について説明できる。 精神疾患の治療について説明できる。 感染症とは何か説明できる。	
11月	感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	感染の3原則を説明できる。 性感染症・エイズなどについて説明できる。	3
12月	健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	意思決定・行動選択を説明できる。 社会環境の健康影響について説明できる。	
1月	事故の現状と発生原因 安全な社会の形成	事故と被害の実態について説明できる。 安全のための行動について説明できる。	
2月	交通における安全 応急手当の意義とその基本	交通事故における責任について説明できる。 応急手当の意義について説明できる。	
3月	日常的な応急手当 心肺蘇生法	日常的なけがや熱中症について説明できる。 心肺祖施法をおこなうことができる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
英語コミュニケーションⅠ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	佐々木　光久

科目の目標	外国語を通じて、言語や文化の違いに対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的なコミュニケーション能力を高める。
使用教科書	『All Aboard! English Communication Ⅰ』(東京書籍)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period	受け身の用法を習得する。 比較表現の用法を習得する。	7
5月	Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period Lesson7 A Diary of hope	受け身の用法を習得する。 比較表現の用法を習得する。	
6月	Lesson7 A Diary of hope	比較表現の用法を習得する。	
7月	Lesson8 A Door to a New Life	現在完了形の用法を習得する。	
8月			
9月	Lesson8 A Door to a New Life Lesson9 Fighting Plastic Pollution	現在完了形の用法を習得する。 名詞を後ろから説明する分詞を習得する。	8
10月	Lesson9 Fighting Plastic Pollution	名詞を後ろから説明する分詞を習得する。	
11月	Lesson10 Pigs from across the sea	関係代名詞(who,which)の用法を習得する。	9
12月	Lesson10 Pigs from across the sea Reading1 Short Stories in English	関係代名詞(who,which)の用法を習得する。 会話文の読解力を習得する。	
1月	Reading1 Short Stories in English	会話文の読解力を習得する。	
2月	Reading2 The Wizard of Oz	長文読解力を習得する。	
3月	Reading2 The Wizard of Oz	長文読解力を習得する。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	携帯･飲食･私語･居眠り･暴言など授業を乱す行為は厳禁。 必要に応じて中学レベルの単語･文法･会話表現のプリントを使用することもある。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
家庭基礎	総合･ドッグケア･パソコン	2	中村　知子

科目の目標	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族･家庭の意義、家族･家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書	家庭基礎　自立･共生･創造（東京書籍　家基701） 『家庭基礎　ライブビュー　資料＋食品成分表』東京書籍

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	第1章　生涯を見通す	自立した生活を営むために，生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	1
5月	第2章　人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように，さまざまな生き方について理解する。	1
6月	第3章　子どもと共に育つ	子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために，子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	2
7月	第4章　超高齢社会を共に生きる	高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	2
8月		。	
9月	第5章　共に生き，共に支える	誰もが生涯を通して自分の力を生かし，必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて，家族･家庭生活を支える福祉について理解する。	3
10月	第6章　食生活をつくる	よりよい食習慣を身につけ，生涯を健康に過ごすために，食生活の課題や食事の意義，食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	3
11月	第7章　衣生活をつくる	用途に合った着装を実践できる力を身につけるために，社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	3
12月	第8章　住生活をつくる	生涯を見通した住生活について考え，将来に向けて自立するために，私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	4
1月	第9章　経済生活を営む	自立した責任ある消費者として，よりよい意思決定ができるよう，現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	4
2月	第10章　持続可能な生活を営む	持続可能な社会を構築するために，持続可能な消費や生活について理解し，ライフスタイルを工夫する。	4
3月	第11章　これからの生活を創造する	人生の目標を達成し，自分らしい生活が実現できるよう，各ライフステージの課題や生活資源，リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	4

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業への積極的な取り組み（教科書や資料集を必ず用意する）、調理実習時にはエプロン･三角巾を用意し、安全と清潔を心がけ、協力して調理できるよう心がける。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報Ⅱ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	髙村　建太

科目の目標	利用者や消費者ではなく，生産や制作をする立場への理解を深める高度な情報活用能力の習得を目指す。
使用教科書	情報Ⅱ （東京書籍　情Ⅱ701）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	情報社会の進展と情報技術 p54,55	･情報技術の発展と生活の変化を理解する。 ･情報システムによる情報の流れを知り，情報モラルや法整備の重要性を理解する。	1
5月	コミュニケーションの多様化 p.56,57	･コミュニケーション手段の分類や特徴を意識し，考える。 ･情報の抽象化･可視化･構造化を理解する。	2
6月	メディアの特性と利用 p.64 コンテンツ制作 p.66	･メディアの特性について学習する。 ･学校PRプロジェクトに取り組むことで，アクセシビリティやユニバーサルデザインを考えた情報コンテンツの作成を学習する。	3
7月	人間の知的活動への影響 p.58	･人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。	4
8月			
9月	社会にあふれるデータ p.76 データベースの管理と操作 p.78	･データの分類や特性を理解する。 ･関係データベースについて学習する。	5
10月	データの分析と分類 p.82	･相関関係と因果関係の違いを理解する。 ･回帰分析，説明変数，目的変数がどのようなものか理解する。	6
11月	モデルの評価と検証 p.84	･分析の結果できたモデルが適切かどうかを考える必要性を学習する。	
12月	情報システム p.92	･どのような情報技術を活用し，身近な生活を支える情報システムが実現されているかを理解する。	
1月	情報システムの設計 p.96	･情報システムの設計の流れを学習する。	
2月	情報システムのプログラム p.100	･情報システムを開発するうえで大切なプログラムの書き方を学習する。	
3月	情報システムのプログラム p.100	･情報システムを開発するうえで大切なプログラムの書き方を学習する。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	―	―	100	20	20
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	80	24	―	―	34
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	特に問題解決と，その為のコンピュータの利用の手順を身に付けてほしい。 理論編は授業をよく聴き，配布するプリントをしっかりと纏めておくこと。 定期考査毎に配布するプリントを提出させテストとともに総合的に評価する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合Ⅱ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	伊藤　直彦

科目の目標	自立と社会参加に必要な知識･技能と自ら考え行動する自主的･主体的な態度を身に付ける。
使用教科書	公文教材（数学）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	公文教材での学習	自主的･主体的な学習態度を身に付ける。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

基準表（別途基準による）

算定式により得られた数値	評価
90以上	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は十分満足できる状況であった。
80以上90未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度はおおむね満足できる状況であった。
80未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は努力を要する状況であった。

履修にあたっての留意点	レベルアップのためにはたくさん枚数をこなすことが必要です。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合的な探究の時間	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	伊藤　直彦

科目の目標	人権学習を基本とした横断的･総合的な学習を行い、自己の在り方生き方を考えながら、課題を解決していくための脂質･能力を育成する。 探究に主体的･協働的に取り組み、自他を認め、お互いの良さを生かしながら、より良い社会を実現しようとする態度を養う。
使用教科書	「気づく　つながる　つくりだす」(三重県教育委員会)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
1学期	修学旅行を踏まえた 地域の歴史、文化、平和学習	各修学旅行先にて、その地域ごとにある文化や歴史などを知ることで、目的意識をより高く持って旅行日を迎えさせることを目標とする。	
2学期	障がい者の人権に係わる問題	ユニバーサルデザインのまちづくりを土台に障がいのある方の人権を考え、個人として、また社会の中での在り方に焦点をあて、それぞれとして考えを持たせる。	1
3学期	性的マイノリティの人権に係わる問題	･性の在り方は多様であることを認識する。 ･性の多様性に係わる基本的な知識を得る。 ･自分の性の在り方を見つめ直すことで、性的指向や性自認に係わる問題を事故の課題として受けとめる。	

学習評価

観点	評価
	教科のように試験の成績等によって数値的に評価することはせず、学習の状況や成果を文章表記によって記録する。

履修にあたっての留意点	･知識を得ることにより、逆に差別をすることないように留意する。 ･自分の価値観を押しつけることがないように留意する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
国語表現	総合･ドッグケア･パソコン	3	梶原　麻由

科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに言語感覚を磨き言語に対する関心を深める。 国語力、思考力、言語感覚を磨き、豊かな感性、表現力を育成する。 プレゼンテーションスキルを身に付ける
使用教科書	『国語表現』教育出版　改訂版

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	言葉にかえる　メモの取り方	自らの考えを意見文として言葉にかえることができる メモがとることができるようになる。	1
5月	意見文の書き方　人とつながる言葉	意見文が書けるようになる。 挨拶表現について理解できるようになる。	1･2
6月	表現技法　語彙･ことわざ	表現技法やことわざを学び、適切な使い方を理解する	3.7
7月	プレゼンテーション	簡単なプレゼンテーションができるようになる。	6
8月	夏期休業課題	漢字や語彙に関する課題を出し、試験を実施る。	
9月	小論文1	小論文基礎を学び、書き方を理解する。	4
10月	小論文2	小論文が書けるようになる。	5
11月	論文	論文の書き方(引用、参考)の仕方を理解する。	
12月	手紙の書き方　時候の挨拶	時候の挨拶及び、手紙の書き方を学ぶ。	8.9
1月	1年間の総括	学習のまとめをする。	
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	プレゼンテーション能力を身に付けていきます。 授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行います。 課題提出は、特別な事情がない限り、期日以降は一切受け取りません。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
国語総合	日本語	2	梶原　麻由

科目の目標	･国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。 ･伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。 ･言語文化に対する関心を深め、適切に表現する技術を身につける。
使用教科書	『新編国語総合』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	ガイダンス誕生日のカレンダー･	四季について学び、カレンダーを創作する･	
5月	いろは歌	平仮名のもとになった漢字について学ぶ･	
6月	原稿用紙の使い方	原稿用紙の基本や作文について学ぶ･	
7月	学期末試験学期末試験の返却･		
8月	夏季休暇課題	漢字について課題を出し、試験を実施する	
9月	干支	十二支や日本の文化について学ぶ	
10月	俳句	俳句について学び、創作する	
11月	実用文の書き方	履歴書、ハガキ、手紙の書き方について学ぶ･	
12月	学期末試験学期末試験の返却･		
1月	今年の漢字	今年の漢字について学び、創作する。	
2月	百人一首	百人一首の鑑賞を行い、理解を深める。	11
3月	･学年末試験･学年末試験の返却･1年間のまとめ	1年間を振り返り、感想文等を書く。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を徹底的に行います。 課題を出しますが、期日を守らない場合、特別な事情がないかぎり、一切受け付けません。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
日本史B	総合･ドッグケア･パソコン	4	伊藤　直彦

科目の目標	最も身近で私たちの生活に直結している日本の歴史を、多角的に考察し授業展開していくことを目標とする。また、通史を総括的に見ることで、日本史の基本的な知識を根付かせる。
使用教科書	『新選日本史B』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	原始社会の生活と文化 農耕社会の形成と大陸文化　の摂取	･更新世から縄文時代、そして中国との関係からの弥生時代、その後の大和朝廷までの流れを理解する。	1
5月	律令国家の形成と古代文化の展開	･大和王朝の成立から律令国家の形成、奈良時代の成立に至る過程を理解する。	2･3
6月	貴族政治と国風文化の発達	･貴族社会の成立と発展、それに伴う摂関政治の展開、院政から平氏の台頭までの流れを理解する。	3
7月	鎌倉幕府の成立から崩壊	･幕府の成立から執権政治の展開、元寇など鎌倉時代を理解する。	4
8月			
9月	室町幕府の成立から崩壊 織豊政権と桃山文化	･幕府の成立から和冠と東アジアとの関　係、また下克上から戦国時代に至る過程　を理解する。 ･ヨーロッパとの関係から織豊政権を考察し、世界史との関わりを重点的にとらえる。	5･6
10月	江戸幕府の成立から幕藩体制の発達	･戦国時代の終焉から江戸幕府の成立、　幕藩体制の確立までを理解する	7･8
11月	幕藩体制の危機と開国 開国から明治維新 日本の近代化と東アジア	･幕末動乱期の日本を世界的視野でとらえ、幕府滅亡に至る経緯を探る。 ･日本の近代化について、幕府の崩壊、明治政府の成立、立憲政治の確立という大きな流れを理解する。	9･10
12月	立憲政治の形成 日本の近代化と東アジアとの関係	･立憲政治の形成からその後の日清、日　露戦争の経緯を、資本主義の発達という観点から理解する。	11･12
1月	第1次世界大戦から日中戦争へ 第2次世界大戦	･三国同盟、三国協商との対立から日本　の参戦、戦争特需、大正デモクラシーを理解し、満州事変から第2次世界大　戦に至る過程を理解する。	12
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	歴史学習に自ら興味を持ち、展開について大きな流れをつかみながら思考力を高めていくことが大切です。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
地理B	総合･ドッグケア･パソコン	4	平井　晋太郎

科目の目標	系統地理分野と地誌分野に関して、基礎基本に重点を置きながら学習を進めていく。また、21世紀を生きる国際人として、日本人としての自覚を促し、地理的な日本国の状況の理解に努める。
使用教科書	『 新詳地理B 』帝国書院 『 標準高等地図 』帝国書院

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	平面上の地球、球面上の地球	地球について考え(大きさ、赤　道周囲、半径、水陸比)、球面　を平面に考えたときの法則(地　図の4要素から)について理解　する。	
5月	世界地図と地図の見方	世界地図から六大陸、六大州、三大洋を捉え、地図上に引かれている経緯線の意	1
6月	世界の地形、気候、植生	地球の姿を地質時代でとらえ、その作られた歴史を概観する。また、その地形を築いた力を理解する。	1･2
7月	流通の地理･消費の地理	交通及び通信の技術発達から世界をとらえ、理解する。消費活動と生活、余暇利用について理解する。	2
8月	夏季休業中課題―わがまちレポート―	住んでいる地域の事柄について、テーマを設定して、探求の活動の1つとして実施	
9月	貿易と経済機構･人口	貿易の変化、国境を越えた関わりを理解する。世界の人口問題を多角的に見つめ、考えるようにする。	3
10月	州･大陸としてとらえる地誌	州及び大陸の区分を理解し、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニ　ア地域について理解する	5
11月	州･大陸としてとらえる地誌	州及び大陸の区分を理解し、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア地域について理解する。	6
12月	様々な視点から地域を分ける･世界の様々な結びつき	EUなどの地域区分についての理解を深め、実際に世界を地域　区分し、地球的課題について考える	6
1月	環境、エネルギー問題を通して世界を見る･人口、食料問題	環境問題、エネルギー問題について考え、その経緯を踏まえ、地球環境保全のために何が出来るのか考え、理解する	9
2月	民族、領土問題	現代社会における戦争、紛争、民族対立などを知り、解決すべき問題であるという認識を深める	
3月	世界の国名	社会人として必要な国名、首都名、国旗、文化など一般常識基　礎学力を付ける。	12

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	授業には教科書･副教材 筆記用具を必ず持参してください。 いま起こっている社会的事象について興味関心を持つようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
数学A	総合･ドッグケア･パソコン	2	西村　康成

科目の目標	数学的な考え方を理解し、基本的な事項を習得する。
使用教科書	『新 数学A』 東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 集合	集合の用語や記号の意味を理解し、表現できるようになる。	
5月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 和の法則と積の法則	和の法則と積の法則に意味を理解し、使い分けることができるようになる。	
6月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 順列	順列の計算方法を理解し、文章題でも応用できるようになる。	
7月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 組合せ	組合せの計算方法を理解し、文章題でも応用できるようになる。	
8月			
9月	1章　場合の数と確率 2節　確率 確率の意味	確率に関する身近な例や具体例を考えることで、確率とはどういうものかがイメージできるようになる。	
10月	1章　場合の数と確率 2節　確率 確率の計算	組合せを用いて、確率の計算ができるようになる。	
11月	2章　図形の性質 1節　三角形の性質	平行線の定理を理解し、角度や辺の長さを求めることができるようになる。	
12月	2章　図形の性質 2節　円の性質	円の性質や定理を理解し、角度や辺の長さを求めることができるようになる。	
1月	3章　整数の性質 1節　約数と倍数 2節　整数の性質の応用	約数、倍数を利用した計算や、2進法を利用した計算ができるようになる。	
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	授業では、必要に応じて適宜小学校や中学校の内容も復習します。数学Aでは、数学Ⅰとは違って計算のほかに思考力や推理力が必要な問題もありますので、練習を重ねて徐々に慣れていってもらいたいと思います。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
生物基礎	日本語	2	多賀　敏正

科目の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。
使用教科書	東京書籍「新編生物基礎」(生基702)，

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生物の特徴 1章　生き物の多様性と共通性	・地球上に多様な種がみられるのは，なぜかを考える。 ・生物は多様であるが，共通性があるのかを知る。 ・生物の細胞は，どのような特徴をもっているのかを知る。	No．1
5月	2章　生物とエネルギー	・生命活動に必要なエネルギーは，どのようにして得られるのかを知る。 ・呼吸や光合成では，どのようにエネルギーが利用されているかを考える。 ・酵素とはどのような物質なのかを知る。	
6月	2編　遺伝子とそのはたらき 1章　遺伝情報とDNA	・生物の形質は，何によって決まるのを知る。 ・DNAは，どのような構造をしているのかを知る。 ・DNAはどのようにして増えるのかを知る。	No．2
7月			
8月			
9月	2章　遺伝情報とタンパク質の合成	・タンパク質にはどのような役割があるのを考える。 ・タンパク質は，DNAからどのようにしてつくられるのを知る。 ・異なる種類の細胞ではたらいている遺伝子は，すべて同じなのを考える。	No．2
10月	3編　ヒトの体の調節 1章ヒトの体を調節するしくみ	・さまざまな環境に対応するために，ヒトの体にはどのような機能が備わっているのかを考え、知る。 ・神経系は，体内環境の維持(いじ)にどのようにかかわっているのかを考える。 ・内分泌系による情報伝達は，体内環境の維持にどのようにかかわっているのかを知る。 ・血糖濃度はどのようなしくみで調節されているのかを知る。	No．3
11月	2章　免疫のはたらき	・ヒトの体はどのようなしくみによって病原体から守られているのかを知る。 ・免疫のしくみを利用することで，どのようにして病気を予防できるのを考える。 ・免疫のしくみが過敏に反応したり，機能しなくなったりすると，ヒトの体にはどのような影響が出るのかを知る。	No．4
12月	4編　生物の多様性と生態系 1章　生殖と遷移	・植生によって環境はどのように変わるのかを考える。 ・時間の経過とともに，植生はどのように変化するのか考える。 ・遷移の結果，世界にはどのような植生が成立しているのを知る。	No．5
1月			
2月	2章　生態系と生物の多様性	・多様な生物と環境にはどのような関係がみられるのかを考える。 ・捕食・被食の関係性と生物の多様性とはどのように関連しているのを考える。 ・人間活動は，生態系にどのような影響を及ぼしているのかを考える。 ・なぜ，多様な生物を保全することが大切なのかを考える。	No．6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	「生物の特徴」「遺伝子とそのはたらき」「ヒトの体の調節」「生物の多様性と生態系」という4つの分野に大きく分けて学習する中で，生物のもたらす豊かさや，生命活動の複雑さ，目の前の自然の成り立ちなどについて，さまざまなところに好奇心をもって学習を進める。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
体育	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	3	郷司　竜太

科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康･安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。
使用教科書	『現代高等保健体育』大修館書店

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	･規律訓練 ･体力テスト ･陸上競技 ･バレーボール	･集団行動の基本の集合、整頓、列の増減、方向転換を円滑に行えるようになる。 ･自己の体力を認識し、レベルの推移を理解する。 ･測定では集団行動の学習をいかし、円滑に授業の進行ができるよう全員で協力する。 ･攻撃の組み立てを楽しむ。個々の特徴を生かしたチームづくりに挑戦する。ローテーション方式に慣れて、それぞれの攻守の役割を理解したゲームに発展させる	1，2，3
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	･ソフトボール ･バドミントン ･バスケットボール	･キャッチボール、トスバッティングがスムーズにできる。 ･フライトの特性を理解する。サービスからの返球。攻めの局面と守りの局面を理解し、場面に応じた返球の仕方を工夫する。 ･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。	
10月			
11月			
12月			
1月	･バスケットボール ･卓球	･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。 ･シングルス、ダブルスのゲームを行う。審判法を理解する。	
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	怪我をさせないように、しっかりと体をほぐし、危険行為がないよう、注意をはかる。 実際に練習を行ってみて「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を考慮し、対戦相手に応じた作戦を立案する。 ルール(方針)を生徒に的確に伝える。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	日本語	1	郷司　竜太

科目の目標	肉体的･精神的に大人に近づいてくる高校生の時期から、その段階に応じた健康課題について理解を深める。 人々が健康に生きていくためには、周囲の自然環境や食品に関する健康問題について学習し、理解を深める。
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	ライフステージと健康 思春期と健康	ライフステージと健康の関連について説明できる。 思春期における体の変化を説明できる。	1
5月	性意識と性行動の選択 妊娠･出産と健康	性意識の男女差について説明できる。 妊娠･出産の過程を説明できる。	
6月	避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康	人工妊娠中絶が及ぼす影響を説明できる。 心身の発達と結婚生活のついて説明できる。	
7月	中高年期と健康 働くことと健康	加齢にともなう心身の変化について説明できる。 働くことの意義について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	労働災害と健康 健康的な職業生活	労働災害の種類と健康について説明できる。 余暇の必要性といぎについて説明できる。	2
10月	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康	大気汚染の原因と影響について説明できる。 水質汚濁･土壌汚染について説明できる。	
11月	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備	産業廃棄物による健康被害について説明できる。 ごみの処理の現状や課題について説明できる。	
12月	食品の安全性 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性と健康の関りについて説明できる。 食品の安全性を確保する役割を説明できる。	
1月	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用	保健行政の役割について説明できる。 医療機関の役割について説明できる。	3
2月	医薬品の制度とその活用 さまざまな健康活動や社会的対策	医薬品の正しい説明法について説明できる。 行政による社会的対策について説明できる。	
3月	健康に関する環境づくりと社会参加	健康のための環境づくりについて説明できる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
英語表現Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	澤井　邦央

科目の目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、理論の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
使用教科書	『NEW FAVORITE English Expression Ⅰ』(東京書籍)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	Lesson 1 :Hello, Japan Lesson 2 :A Present for Sophie	[言語材料] S+V / S+V+C / S+V+O [外国語表現の能力] 自己紹介の基本である名前、年齢、学年、好きなことが表現できる。 [言語材料] S+V+O1+O2 / S+V+O+C [外国語表現の能力] 相談における特有などが表現できる。	1
5月	Lesson 3:What Did You Do? Lesson 4:Let`s Go on a Trip	[言語材料] 現在形 / 現在進行形 [外国語表現の能力] 手紙における特有の言い回しなどが表現できる。 [言語材料] 未来の事を言う [外国語表現の能力] 近い未来の予定や確定した未来を表現できる。	1
6月	Lesson 5:Music Lovers Lesson 6:What a Day!	[言語材料] 現在完了形 / 現在完了進行形 [外国語表現の能力] 完了形の言い回しを表現できる。 言語材料] 過去完了形 / 過去完了進行形 [外国語表現の能力] メール特有の言い回しを表現できる。	2
7月	Lesson 7:Different Schools, Different Rules Lesson 8:Snail Mai	[言語材料] 助動詞(1):丁寧･過去の推量･判断などの表現 [外国語表現の能力] 助動詞の言い回しを表現できる。 [言語材料] 助動詞(2):過去の習慣などを表す表現 [外国語表現の能力] 助動詞特有の言い回しを表現できる。	2
8月			
9月	Lesson 9:Plastic Food Samples Lesson 10:What Is That Gesture?	[言語材料] 受け身 / 受け身を使った慣用表現 [外国語表現の能力] 受け身特有の言い回しを表現できる。 [言語材料] to不定詞広告 [外国語表現の能力] to不定詞を正確に使って文を作ることができる。	3
10月	Lesson 11:Laughter Brings Happiness Lesson 12:A Movie Review	[言語材料] 動名詞 / 動名詞の慣用表現 [外国語表現の能力]①聞き手にわかりやすいように4コマ漫画を紹介することができる。②動名詞を使った慣用表現を使うことができる。 [言語材料] 形容詞化した現在分詞と過去分詞 [外国語表現の能力] 現在分詞と過去分詞を使い分け、正しく名詞を修飾することができる。	3
11月	Lesson 13:My Brothers Eats … Homework Lesson 14:The Future of Robots	[言語材料] 知覚動詞 / 使役動詞 /分詞構文 [外国語表現の能力] ①知覚動詞、使役動詞を使って文を作ることができる。②分詞構文の文を作ることができる。 [言語材料] 関係代名詞(who, whom, which, that, whose) [外国語表現の能力] 関係代名詞を使って正確に文を作ることができる。	4
12月	Lesson 15:Visit Kuala Lumpur! Lesson 16:Our School`s Global Footprint	[言語材料] 関係副詞(where, when, why, how) [外国語表現の能力] 関係副詞を使って正確に文を作ることができる。 [言語材料] 関係代名詞what / 関係詞の非制限用法 / 前置詞+関係代名詞 [外国語表現の能力]関係詞whatを使って文を作ることが出来る。	4
1月	Lesson 17:Tokyo Sky Tree Lesson 18:New Zealand	[言語材料] 同等比較 / 比較級 / 最上級 [外国語表現の能力]①比較表現を使って文を作ることができる。②各地の名所について他のものと比較しながら紹介する文を作ることができる。 [言語材料] 倍数表現 / 比較表現の言い換え [外国語表現の能力]①倍数表現を使って文を作ることができる。②「最も～だ」というときの比較表現を使って文の言い換えをすることができる。	5
2月	Lesson 19:If I Were Principal… Lesson 22:Thank You, Everyone!	[言語材料] 仮定法過去 / 仮定法過去完了 [外国語表現の能力]①仮定法の文を正確に作ることができる。②学校についてスピーチすることができる。 [言語材料] 仮定法を用いた表現 [外国語表現の能力]「まるで～のように」「～ならよかったのに」と言うときの表現を使うことができる。	6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	—	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	—	—	—
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	必要に応じて、中学レベルの英単語･英文法の復習をする場合もある。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報の科学	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	神谷　卓敬

科目の目標	情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解するとともに、科学的な考え方を習得し、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を養う。
使用教科書	「情報の科学」実務出版

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	序章 1　社会と情報 2　情報機器とコンピュータ	･現代社会における情報の重要性を身につける。 ･情報伝達手段の変化と社会の変遷について考えることができるようにする。 ･情報リテラシーについて理解できるようにする。 ･コンピュータの基本的なしくみについて修得する。	1
5月	第1章　情報のディジタル化 1　情報のディジタル化のしくみ 2　情報機器の種類と特性	･ディジタル情報の扱い方について、学習する。 ･アナログとディジタルの特徴を学習し、それぞれの長所を理解できるようにする。 ･パーソナルコンピュータを使って、文字、画像、音声の入力と保存ができるようにする。 ･コンピュータで情報が扱われるときの単位などを理解できるようにする。 ･ディジタルデータは、コンピュータを用いて統合的に扱える。 ･プライバシー権などの新しい人権のなりたちについて理解をふかめる。	1，2
6月	3　情報機器を活用した表現方法	･プレゼンテーションの構成を、論理的に組み立てることができるようにする。 ･プレゼンテーションソフトウェアの基本的な使い方を身につける。	3
7月	実習1 クラブ紹介をしよう	･プレゼンテーションソフトウェアで発表用資料をつくり、プレゼンテーションをおこなう。 ･相互評価にもとづいて、資料の修正ができるようにする。	
8月			
9月	第2章　情報通信ネットワークとコミュニケーション 1　情報通信のしくみ 実習2 暗号を体験してみよう	･コンピュータネットワークのしくみを身につける。･ネットワーク管理のための基本的対策を修得する。･ワクチンプログラムを正しく利用するなど、コンピュータウイルスに対する予防と対処ができるようにする。 ･暗号化方式の基本について修得する。	4
10月	2　情報通信の効率的な方法 3　コミュニケーションにおけるネットワークの活用	･情報の量と伝送速度について、理解できるようにする。 ･圧縮の基本的な考えについて修得する。 ･エラー検出とエラー訂正について修得する。 ･これらをふまえて、どういう形式のデータが適切か、判断できるようにする。 ･電子メールなどネットワーク上のコミュニケーション手段を使えるようにする。 ･メディアに応じた適切なコミュニケーションの形を理解できるようにする。 ･ネットワークコミュニケーションにおける望ましい態度をとることができるようにする。	4
11月	第3章　情報の収集･発信と個人の責任 1　情報の公開･保護と個人の責任	･情報の収集において、どのような点に配慮すればよいか、考えることができるようにする。 ･流通している情報の、発信者の意図を考えることの必要性を理解できるようにする。 ･プライバシーや知的財産権についての知識を修得する。	5
12月	2　ネットワークを活用した情報の収集･発信	･ウェブページのしくみについて、修得する。 ･キーワード検索の絞りこみを理解するなど、必要な情報が検索できるようにする。 ･収集した資料を分析し、適切な形で表現できるようにする。 ･HTMLの基本的な書き方を学習する。	5
1月	第4章　情報化の進展と社会への影響 1　社会で利用されている情報システム 2　情報化が社会におよぼす影響	･身の回りの情報システムについて、学習する。 ･自分が使っているパーソナルコンピュータのセキュリティについて関心をもつ。 ･情報化が社会にもたらす影響について身につける。･情報モラルについて、どういうものか理解できるようにする。 ･情報化が社会にもたらした、光の面と影の面について、それぞれ理解できるようにする。	6
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	基礎的な内容を中心に勉強していきます。 1年生で勉強した内容の応用も含まれます。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
書道Ⅰ	日本語	4	中西　美幸

科目の目標	書を愛好する心情を身につけるとともに、感性を豊かにし、表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。
使用教科書	『書道Ⅰ』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	九成宮醴泉銘　「風景」P20	楷書の古典を臨書する意義について理解する。	1
5月			
6月	蘭亭序　「天朗氣清」P41	行書の古典を臨書する意義について理解する。	2
7月			
8月			
9月	隷書　「世紀」P50	隷書が成立する過程や隷書の特徴について理解する。	3
10月	平仮名の単体　「い」～「う」P66	仮名の成立と変遷について理解する。	4
11月			
12月	平仮名の単体　「ゐ」～「ん」P67	仮名の成立と変遷について理解する。	5
1月			
2月	臨書・鑑賞　「蓬莱切」P74	平安時代の代表的な古筆を臨書する意義について理解する。	6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動・発言)等	30	―	―	―
ノート・作品・課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	学習した知識を、日常生活にいかせるようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合Ⅲ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	1	郷司　竜太

科目の目標	自立と社会参加に必要な知識･技能と自ら考え行動する自主的･主体的な態度を身に付ける。
使用教科書	公文教材(数学)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	公文教材での学習	自主的･主体的な学習態度を身に付ける。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

基準表(別途基準による)

算定式により得られた数値	評価
90以上	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は十分満足できる状況であった。
80以上90未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度はおおむね満足できる状況であった。
80未満	積み上げ式の学習を主体的に取り組み、学習量･進捗度･到達度は努力を要する状況であった。

履修にあたっての留意点	レベルアップのためにはたくさん枚数をこなすことが必要です。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合的な探究の時間	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	1	

科目の目標	①異文化理解という視点で、自他の置かれている環境の多様性を認識し、個人間や個と社会とのコミュニケーションのあり方の多様性について考えること。 ②問題（課題）意識を覚醒し、その社会的な解決に向けて自主的に学習したり、体験したりする態度を培うこと。
使用教科書	適時プリントを配布する。

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	人権学習･進路学習 『全国高等学校統一用紙』	･統一応募用紙制定の経緯を知る。 ･さまざま状況の中で進路を切り拓いていく仲間がいることを知る。 ･具体的に用紙への記入方法を学ぶ。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	人権学習 成人について	･成人年齢が18歳となったことを踏まえ「成人」について考える。 ･以前から実施されている選挙年齢の18歳の責任についても考える。	1
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

学習評価

学習活動	観点	評価
		教科のように試験の成績等によって数値的に評価することはせず、学習の状況や成果を文章表記によって記録する。

履修にあたっての留意点	･さまざまな情報にふれることにより自己の中に無意識だった差別心に気づき、それと向き合う中で、社会と自己との関係を見つめ直し、自他ともに暮らしやすい社会の構築を具現化させる。 ･既存の価値観を押しつけることがないように学習を進める。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	1年次	2	

科目の目標	調理　将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	スポーツ　計画的に運動を実施し、健康的な体づくりを目指す。ニュースポーツなどへの挑戦。
	教科書語彙対策(日本語講座)各教科の教科書の読みを確認したり、意味を確認したりする。最初のハードルをクリアすることで、各教科に対する恐怖心、不安感を払拭し、学習意欲を高めたり、無力感を感じることがないようにする。
使用教科書	日本語講座(教科書語彙対策):『教科につなげる学習語彙・漢字ドリル』(母語版:英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語)

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	講座・テキストの説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の基礎知識(国語)	文法の基礎知識を理解し、文の構造を知る。 文の成分とは何かを理解することで、正確に文を読むことができるようになる。
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の基礎知識(国語)	文法の基礎知識を理解し、文の構造を知る。 文の成分とは何かを理解することで、正確に文を読むことができるようになる。
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	植物の生活と種類(理科)	植物に関する語彙を知り、その構造や働きを理解する。
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	光と音・力 身の回りの物質 大地の変化　(理科)	それぞれに関する語彙を知り、その性質や仕組みを理解する。 物質に関する語彙を知り、その性質を理解する。 地震・地層に関する語彙を知り、その基礎知識を学ぶ。
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	地理(社会)	地理に関する語彙を知り、日本の地方・都道府県を覚える。
11月	調理実習	文化祭におけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	確立① 関数(数学)①	確立の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。 関数の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	確立② 関数(数学)②	確立の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。 関数の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	総まとめ①	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	総まとめ②	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	総まとめ③	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	調理　食中毒にならないためにエプロン、三角巾とタオルを必ず持参し着用すること。
	外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	1年次	2	

科目の目標	調理　将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	スポーツ　計画的に運動を実施し、健康的な体づくりを目指す。ニュースポーツなどへの挑戦。
	作文(日本語講座)既習の語彙や文型を使って自分の感想や意見を日本語で文章化できるようにする。進学や就職後に要求されるレポートや論文の形でまとまった主張を展開できる日本語の表現力を養う。
使用教科書	日本語講座(作文):『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション 第1課　私を表す漢字①	「理由」が詳しく、わかりやすく書ける 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第1課　私を表す漢字②	「理由」が詳しく、わかりやすく書ける 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第2課　私のおすすめ	内容や言葉を詳しく、わかりやすく説明する作文が書ける 「話し言葉」と「書き言葉」の違いを理解し、正しく作文する
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第3課　留学の準備	順番を表す接続語などを用いて、順序だてて作文する 原稿用紙の使い方を学ぶ
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第4課　私の「普通」とあなたの「普通」	比較表現を用いて、意見を述べることができる アウトラインを利用して作文する
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第5課　朝型か、夜型か	深く考え、それを論理的に書くことができる
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第6課　グラフを読む・グラフを書く	日本語でグラフを説明する基本的な練習をする グラフを説明する表現を学ぶ
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第7課　グラフを読む・意見を述べる①	より複雑なグラフを説明する練習をする 意見を表す表現を学ぶ
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第7課　グラフを読む・意見を述べる②	より複雑なグラフを説明する練習をする 意見を表す表現を学ぶ
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第8課　総まとめ①	自らの作文を書く力の変化を確かめる
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第8課　総まとめ②	自らの作文を書く力の変化を確かめる

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	調理　食中毒にならないためにエプロン、三角巾とタオルを必ず持参し着用すること。
	外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	1年次	2	

科目の目標	漢字検定対策 個々にあった漢検の問題を解きながら、個人の語彙量、語彙の理解を目的とする。
	英検対策　資格取得、大学受験対策、更なる英語への理解。
	IT資格対策　日本語ワープロ検定、文章入力スピード認定試験の合格を目指して、練習していく。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月	授業の進め方、個々に相応しい級を決める	授業進め方の理解
	英検4級過去問題(通し)	英検4級問題に慣れる
	Word入門　基本操作、入力 タイピング	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める。
5月	漢字練習	漢字に関心をもつ
	英検4級過去問題(リーディング問題)	英検4級リーディング問題の集中レッスン
	Word入門 タイピング	文章入力の基本操作について学習する。
6月	漢字練習	漢字力を身につける
	英検4級過去問題(リスニング問題)	英検4級リスニング問題の集中レッスン
	Word入門　文書作成 タイピング	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習す
7月	漢字練習	問題を振り返り、さらに学習する
	英検4級過去問題(通し)	英検4級本番想定模擬試験
	Word入門　文書作成 タイピング	検定へ向けて、基本的操作、文書作成能力を身に付ける。
8月		
9月	漢字練習	忘れている漢字を思い出す
	・希望者は英検4級を本会場にて受験 英検3級過去問題(通し)	・英検4級合格者は英検3級問題。不合格者はまたは未受験者は3級または4級から選択可。
	Word基礎　検定受験へ向けて タイピング	基礎的な練習(タイピング所作、文書作成)を重ね、その実践と
10月	漢字練習	忘れている漢字を思い出す
	英検3、4級過去問題(リーディング問題)	英検3、4級リーディング問題の集中レッスン
	タイピング 日本語ワープロ検定試験3・4級	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
11月	漢字練習	漢字プリントを解いていく
	英検3、4級過去問題(リスニング問題)	英検3、4級リスニング問題の集中レッスン
	【Word基本】表作成 タイピング	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習す
12月	漢字練習	漢字検定を意識した学習をする
	英検3、4級過去問題(通し)	英検3、4級本番想定模擬試験
	【Word基本】図形挿入	Wordの図形描画機能の基本操作について学習する。
1月	漢字検定受験	漢字検定に特化した学習
	・希望者は英検3、4級を本会場にて受験 英検準2、3級過去問題(通し)	・合格者は英検準2級問題。不合格者はまたは未受験者は準2級または3級から選択可。
	過去問練習 タイピング	検定試験に向けて、過去問で練習し総確認する。
2月	漢字練習	漢字プリントを解いていく
	英検準2、3級過去問題(リーディング問題)	英検準2、3級リーディング問題の集中レッスン
	日本語ワープロ検定試験3・4級	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
3月	漢字練習	当該級の仕上げテストをする
	英検準2、3級過去問題(リスニング問題)	英検準2、3級リスニング問題の集中レッスン
	タイピング力形成・総復習	実践的タイピング力を形成し、年間の総復習を行う。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	漢字検定対策　1月にはそれぞれの受験する級を検定受験する
	漢字検定対策(日本語講座対象者)　漢字検定の問題集ではなく、漢字ドリルを使用して学習を進める
	英語検定対策　年間1回はそれぞれの受験する級を検定受験する
	IT検定対策講座　年間1回以上検定にチャレンジすること。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D ソーシャルスキル講座	1年次	2	北森・藤瀧

科目の目標	言葉で考え、判断し、表現する言語能力および認知機能・感情統制機能の向上を図る学習活動を通じてソーシャルスキルを身につける。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月	ソーシャルスキル尺度、自己紹介	自己理解　自分の長所や短所を考える
5月	ポジティブ思考	自己理解　ポジティブな考え方を実践する
6月	話の聞き方・話の仕方	コミュニケーションスキルを身につける
7月	夏季休業の計画、携帯・スマホの使い方	夏季休業中の自己管理
8月		
9月	上手な断り方・頼み方	コミュニケーションスキルを身につける
10月	考え方の変え方	セルフコントロールを身につける
11月	感情のコントロール	セルフコントロールを身につける
12月	ストレス解消法	セルフコントロールを身につける
1月	人との適切な距離感	コミュニケーションスキルを身につける
2月	ジョハリの窓	自己理解と他者評価
3月	ソーシャルスキル尺度	自己評価

講座の構成	・グループエンカウンターのエクササイズを多く行うことでリレーション形成を図る。 ・リレーション形成の状況に応じ、SSTのターゲットスキルを柔軟に選択する。基本的にはコミュニケーションスキル、セルフコントロールスキルと進めていく。 ・第1回と最終回にソーシャルスキル尺度を用いて効果測定を行う。 ・各ワークの振り返りシートから生徒の状況を理解することに努め、生徒の実態に応じた柔軟な対応を行う。 ・SSTのモデリングは担当教員で行う。

学習評価	観点別評価および評定は行わず、生徒指導要録の「総合所見および指導上参考となる諸事項」欄に学習状況を文章で記述する。

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	2年次	2	

科目の目標	調理　将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	スポーツ　計画的に運動を実施し、健康的な体づくりを目指す。ニュースポーツなどへの挑戦。
	教科書語彙対策（日本語講座）各教科の教科書の読みを確認したり、意味を確認したりする。最初のハードルをクリアすることで、各教科に対する恐怖心、不安感を払拭し、学習意欲を高めたり、無力感を感じることがないようにする。
使用教科書	日本語講座（教科書語彙対策）:『教科につなげる学習語彙・漢字ドリル』（母語版：英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語）

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	講座・テキストの説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の基礎知識（国語）	文法の基礎知識を理解し、文の構造を知る。 文の成分とは何かを理解することで、正確に文を読むことができるようになる。
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	三角形の性質・合同・相似・平行四辺形（数学）	図形の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	植物の生活と種類（理科）	植物に関する語彙を知り、その構造や働きを理解する。
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	光・音・力 身の回りの物質 大地の変化　（理科）	それぞれに関する語彙を知り、その性質や理解する。 物質に関する語彙を知り、その性質を理解する。 地震・地層に関する語彙を知り、その基礎知識を学ぶ
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	地理（社会）	地理に関する語彙を知り、日本の地方・都道府県を覚える。
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	確立① 関数（数学）①	確立の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。 関数の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	確立② 関数（数学）②	確立の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。 関数の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	総まとめ①	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	総まとめ②	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	総まとめ③	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	調理　食中毒にならないためにエプロン、三角巾とタオルを必ず持参し着用すること。
	外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	2年次	2	

科目の目標	調理　将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	スポーツ　計画的に運動を実施し、健康的な体づくりを目指す。ニュースポーツなどへの挑戦。
	作文(日本語講座)既習の語彙や文型を使って自分の感想や意見を日本語で文章化できるようにする。進学や就職後に要求されるレポートや論文の形でまとまった主張を展開できる日本語の表現力を養う。
使用教科書	日本語講座(作文):『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション 第1課　私を表す漢字①	「理由」が詳しく、わかりやすく書ける 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第1課　私を表す漢字②	「理由」が詳しく、わかりやすく書ける 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第2課　私のおすすめ	内容や言葉を詳しく、わかりやすく説明する作文が書ける 「話し言葉」と「書き言葉」の違いを理解し、正しく作文する
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第3課　留学の準備	順番を表す接続語などを用いて、順序だてて作文する 原稿用紙の使い方を学ぶ
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第4課　私の「普通」とあなたの「普通」	比較表現を用いて、意見を述べることができる アウトラインを利用して作文する
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第5課　朝型か、夜型か	深く考え、それを論理的に書くことができる
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第6課　グラフを読む・グラフを書く	日本語でグラフを説明する基本的な練習をする グラフを説明する表現を学ぶ
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第7課　グラフを読む・意見を述べる①	より複雑なグラフを説明する練習をする 意見を表す表現を学ぶ
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第7課　グラフを読む・意見を述べる②	より複雑なグラフを説明する練習をする 意見を表す表現を学ぶ
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第8課　総まとめ①	自らの作文を書く力の変化を確かめる
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第8課　総まとめ②	自らの作文を書く力の変化を確かめる

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	調理　食中毒にならないためにエプロン、三角巾とタオルを必ず持参し着用すること。
	外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	2年次	2	

科目の目標	漢字検定対策 個々にあった漢検の問題を解きながら、個人の語彙量、語彙の理解を目的とする。
	英検対策　資格取得、大学受験対策、更なる英語への理解。
	IT資格対策　日本語ワープロ検定、文章入力スピード認定試験の合格を目指して、練習していく。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月	授業の進め方、個々に相応しい級を決める	授業進め方の理解
	英検4級過去問題(通し)	英検4級問題に慣れる
	Word入門　基本操作、入力 タイピング	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める。
5月	漢字練習	漢字に関心をもつ
	英検4級過去問題(リーディング問題)	英検4級リーディング問題の集中レッスン
	Word入門 タイピング	文章入力の基本操作について学習する。
6月	漢字練習	漢字力を身につける
	英検4級過去問題(リスニング問題)	英検4級リスニング問題の集中レッスン
	Word入門　文書作成 タイピング	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習す
7月	漢字練習	問題を振り返り、さらに学習する
	英検4級過去問題(通し)	英検4級本番想定模擬試験
	Word入門　文書作成 タイピング	検定へ向けて、基本的操作、文書作成能力を身に付ける。
8月		
9月	漢字練習	忘れている漢字を思い出す
	・希望者は英検4級を本会場にて受験 英検3級過去問題(通し)	・英検4級合格者は英検3級問題。不合格者はまたは未受験者は3級または4級から選択可。
	Word基礎　検定受験へ向けて タイピング	基礎的な練習(タイピング所作、文書作成)を重ね、その実践と
10月	漢字練習	忘れている漢字を思い出す
	英検3、4級過去問題(リーディング問題)	英検3、4級リーディング問題の集中レッスン
	タイピング 日本語ワープロ検定試験3・4級	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
11月	漢字練習	漢字プリントを解いていく
	英検3、4級過去問題(リスニング問題)	英検3、4級リスニング問題の集中レッスン
	【Word基本】表作成 タイピング	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習す
12月	漢字練習	漢字検定を意識した学習をする
	英検3、4級過去問題(通し)	英検3、4級本番想定模擬試験
	【Word基本】図形挿入	Wordの図形描画機能の基本操作について学習する。
1月	漢字検定受験	漢字検定に特化した学習
	・希望者は英検3、4級を本会場にて受験 英検準2、3級過去問題(通し)	・合格者は英検準2級問題。不合格者はまたは未受験者は準2級または3級から選択可。
	過去問練習 タイピング	検定試験に向けて、過去問で練習し総確認する。
2月	漢字練習	漢字プリントを解いていく
	英検準2、3級過去問題(リーディング問題)	英検準2、3級リーディング問題の集中レッスン
	日本語ワープロ検定試験3・4級	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
3月	漢字練習	当該級の仕上げテストをする
	英検準2、3級過去問題(リスニング問題)	英検準2、3級リスニング問題の集中レッスン
	タイピング力形成・総復習	実践的タイピング力を形成し、年間の総復習を行う。

学習評価

評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
評価方法	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	漢字検定対策　1月にはそれぞれの受験する級を検定受験する
	漢字検定対策(日本語講座対象者) 漢字検定の問題集ではなく、漢字ドリルを使用して学習を進める
	英語検定対策　年間1回はそれぞれの受験する級を検定受験する
	IT検定対策講座　年間1回以上検定にチャレンジすること。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D ソーシャルスキル講座	2年次	2	北森・藤瀧

科目の目標	言葉で考え、判断し、表現する言語能力および認知機能・感情統制機能の向上を図る学習活動を通じてソーシャルスキルを身につける。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月	ソーシャルスキル尺度、自己紹介	自己理解　自分の長所や短所を考える
5月	ポジティブ思考	自己理解　ポジティブな考え方を実践する
6月	話の聞き方・話の仕方	コミュニケーションスキルを身につける
7月	夏季休業の計画、携帯・スマホの使い方	夏季休業中の自己管理
8月		
9月	上手な断り方・頼み方	コミュニケーションスキルを身につける
10月	考え方の変え方	セルフコントロールを身につける
11月	感情のコントロール	セルフコントロールを身につける
12月	ストレス解消法	セルフコントロールを身につける
1月	人との適切な距離感	コミュニケーションスキルを身につける
2月	ジョハリの窓	自己理解と他者評価
3月	ソーシャルスキル尺度	自己評価

講座の構成	・グループエンカウンターのエクササイズを多く行うことでリレーション形成を図る。 ・リレーション形成の状況に応じ、SSTのターゲットスキルを柔軟に選択する。基本的にはコミュニケーションスキル、セルフコントロールスキルと進めていく。 ・第1回と最終回にソーシャルスキル尺度を用いて効果測定を行う。 ・各ワークの振り返りシートから生徒の状況を理解することに努め、生徒の実態に応じた柔軟な対応を行う。 ・SSTのモデリングは担当教員で行う。

学習評価	観点別評価および評定は行わず、生徒指導要録の「総合所見および指導上参考となる諸事項」欄に学習状況を文章で記述する。

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	3年次	2	

科目の目標	調理　将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	スポーツ　計画的に運動を実施し、健康的な体づくりを目指す。ニュースポーツなどへの挑戦。
	教科書語彙対策(日本語講座)各教科の教科書の読みを確認したり、意味を確認したりする。最初のハードルをクリアすることで、各教科に対する恐怖心、不安感を払拭し、学習意欲を高めたり、無力感を感じることがないようにする。
	ネイルアート 3年ネイリスト技能検定1級取得　ジェルネイル検定中級 を目指す
使用教科書	日本語講座(教科書語彙対策):『教科につなげる学習語彙・漢字ドリル』(母語版:英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語)

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	講座・テキストの説明、理解
	学科・ネイルケア	基礎知識　習得 2、3年生　2級検定試験
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の基礎知識(国語)	文法の基礎知識を理解し、文の構造を知る。 文の成分とは何かを理解することで、正確に文を読むことができるようになる。
	学科・ネイルケア	ファイル～グリーンナップ ネイルケアの流れを習得
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の基礎知識(国語)	文法の基礎知識を理解し、文の構造を知る。 文の成分とは何かを理解することで、正確に文を読むことができるようになる。
	ネイルケア	ファイリングをクリアする ネイルケアを相モデルで練習
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	植物の生活と種類(理科)	植物に関する語彙を知り、その構造や働きを理解する。
	ネイルケア	ファイリングをクリアする ネイルケアを相モデルで練習
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	光と音・力 身の回りの物質 大地の変化　(理科)	それぞれに関する語彙を知り、その性質や仕組みを理解する。 物質に関する語彙を知り、その性質を理解する。 地震・地層に関する語彙を知り、その基礎知識を学ぶ。
	カラーリング	ネイルチップを使ったカラーの練習
10月	調理実習	材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考える
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	地理(社会)	地理に関する語彙を知り、日本の地方・都道府県を覚える。
	ネイルケア カラーリング	ネイルケアの過程を細かくチェックし、クリアする 2、3年生　1級検定試験　1年生　3級検定試験
11月	調理実習	文化祭におけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	確立① 関数(数学)①	確立の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。 関数の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
	試験通りの練習	モデルを使い練習
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	確立② 関数(数学)②	確立の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。 関数の問題を解く際に必要な語彙を覚え、問題文を理解する。
	試験通りの練習	タイムを計り、時間内に収める モデルを使い練習 タイムを計り、時間内に収める
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	総まとめ①	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する
	試験通りの練習	検定試験
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	総まとめ②	実際の問題を通して、学んだ語彙を確認する
	ネイルアート	筆の使い方をマスターする。デザインをする。
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	ネイルアート	筆の使い方をマスターする。デザインをする。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	調理　食中毒にならないためにエプロン、三角巾とタオルを必ず持参し着用すること。
	ネイルアート 課題研究A・課題研究Bはネイルアートを履修していただきます。またネイリスト技能検定及びジェルネイル検定の受験料が必要となります。その他、マスク・タオル・キッチンペーパー等の準備をお願いします。
	外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	3年次	2	

科目の目標	調理　将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	スポーツ　計画的に運動を実施し、健康的な体づくりを目指す。ニュースポーツなどへの挑戦。
	作文(日本語講座)既習の語彙や文型を使って自分の感想や意見を日本語で文章化できるようにする。進学や就職後に要求されるレポートや論文の形でまとまった主張を展開できる日本語の表現力を養う。
	ネイルアート 3年ネイリスト技能検定1級取得　ジェルネイル検定中級 を目指す
使用教科書	日本語講座(作文):『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション 第1課　私を表す漢字①	「理由」が詳しく、わかりやすく書ける 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く
	学科・ネイルケア	基礎知識　習得 2、3年生　2級検定試験
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第1課　私を表す漢字②	「理由」が詳しく、わかりやすく書ける 「です・ます体」ではなく「普通体」で書く
	学科・ネイルケア	ファイル～グリーンナップ ネイルケアの流れを習得
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第2課　私のおすすめ	内容や言葉を詳しく、わかりやすく説明する作文が書ける 「話し言葉」と「書き言葉」の違いを理解し、正しく作文する
	ネイルケア	ファイリングをクリアする ネイルケアを相モデルで練習
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第3課　留学の準備	順番を表す接続語などを用いて、順序だてて作文する 原稿用紙の使い方を学ぶ
	ネイルケア	ファイリングをクリアする ネイルケアを相モデルで練習
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第4課　私の「普通」とあなたの「普通」	比較表現を用いて、意見を述べることができる アウトラインを利用して作文する
	カラーリング	ネイルチップを使ったカラーの練習
10月	調理実習	材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考え
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第5課　朝型か、夜型か	深く考え、それを論理的に書くことができる
	ネイルケア カラーリング	ネイルケアの過程を細かくチェックし、クリアする 2、3年生　1級検定試験　1年生　3級検定試験
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第6課　グラフを読む・グラフを書く	日本語でグラフを説明する基本的な練習をする グラフを説明する表現を学ぶ
	試験通りの練習	モデルを使い練習
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	第7課　グラフを読む・意見を述べる①	より複雑なグラフを説明する練習をする 意見を表す表現を学ぶ
	試験通りの練習	タイムを計り、時間内に収める モデルを使い練習 タイムを計り、時間内に収める
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	第7課　グラフを読む・意見を述べる②	より複雑なグラフを説明する練習をする 意見を表す表現を学ぶ
	試験通りの練習	検定試験
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	第8課　総まとめ①	自らの作文を書く力の変化を確かめる
	ネイルアート	筆の使い方をマスターする。デザインをする。
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	ネイルアート	筆の使い方をマスターする。デザインをする。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	調理　食中毒にならないためにエプロン、三角巾とタオルを必ず持参し着用すること。
	ネイルアート 課題研究A・課題研究Bはネイルアートを履修していただきます。またネイリスト技能検定及びジェルネイル検定の受験料が必要となります。その他、マスク・タオル・キッチンペーパー等の準備をお願いします。
	外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	3年次	2	

科目の目標	漢字検定対策 個々にあった漢検の問題を解きながら、個人の語彙量、語彙の理解を目的とする。
	英検対策　資格取得、大学受験対策、更なる英語への理解。
	IT資格対策　日本語ワープロ検定、文章入力スピード認定試験の合格を目指して、練習していく。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月	授業の進め方、個々に相応しい級を決める	授業進め方の理解
	英検4級過去問題(通し)	英検4級問題に慣れる
	Word入門　基本操作、入力 タイピング	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める
5月	漢字練習	漢字に関心をもつ
	英検4級過去問題(リーディング問題)	英検4級リーディング問題の集中レッスン
	Word入門 タイピング	文章入力の基本操作について学習する
6月	漢字練習	漢字力を身につける
	英検4級過去問題(リスニング問題)	英検4級リスニング問題の集中レッスン
	Word入門　文書作成 タイピング	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する
7月	漢字練習	問題を振り返り、さらに学習する
	英検4級過去問題(通し)	英検4級本番想定模擬試験
	Word入門　文書作成 タイピング	検定へ向けて、基本的操作、文書作成能力を身に付ける
8月		
9月	漢字練習	忘れている漢字を思い出す
	・希望者は英検4級を本会場にて受験 英検3級過去問題(通し)	・英検4級合格者は英検3級問題。不合格者はまたは未受験者は3級または4級から選択可。
	Word基礎　検定受験へ向けて タイピング	基礎的な練習(タイピング所作、文書作成)を重ね、その実践として過去問を用いて、実践的力を身に付ける。
10月	漢字練習	忘れている漢字を思い出す
	英検3、4級過去問題(リーディング問題)	英検3、4級リーディング問題の集中レッスン
	タイピング 日本語ワープロ検定試験3・4級	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
11月	漢字練習	漢字プリントを解いていく
	英検3、4級過去問題(リスニング問題)	英検3、4級リスニング問題の集中レッスン
	【Word基本】表作成 タイピング	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する
12月	漢字練習	漢字検定を意識した学習をする
	英検3、4級過去問題(通し)	英検3、4級本番想定模擬試験
	【Word基本】図形挿入	Wordの図形描画機能の基本操作について学習する
1月	漢字検定受験	漢字検定に特化した学習
	・希望者は英検3、4級を本会場にて受験 英検準2、3級過去問題(通し)	・合格者は英検準2級問題。不合格者はまたは未受験者は準2級または3級から選択可。
	過去問練習 タイピング	検定試験に向けて、過去問で練習し総確認する
2月	漢字練習	漢字プリントを解いていく
	英検準2、3級過去問題(リーディング問題)	英検準2、3級リーディング問題の集中レッスン
	日本語ワープロ検定試験3・4級	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う
3月	漢字練習	当該級の仕上げテストをする
	英検準2、3級過去問題(リスニング問題)	英検準2、3級リスニング問題の集中レッスン
	タイピング力形成・総復習	実践的タイピング力を形成し、年間の総復習を行う

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	漢字検定対策　1月にはそれぞれの受験する級を検定受験する
	漢字検定対策(日本語講座対象者)　漢字検定の問題集ではなく、漢字ドリルを使用して学習を進める
	英語検定対策　年間1回はそれぞれの受験する級を検定受験する
	IT検定対策講座　年間1回以上検定にチャレンジすること。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	3年次	2	

科目の目標	進路探究　就職や進学について十分研究するために、外部講師を招いたり、DVDを見せることで興味関心を持たせるとともに、実践的に自分の進路実現に近づけていく。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月	進路希望調査と興味のある分野のアンケート	探究を取り組むにあたっての導入として考える力を付ける
5月	進路決定について	探究を取り組むにあたっての導入として考える力を付ける
6月	分野別講演会	基礎的知識を習得する
7月	進路希望調査と興味のある分野のアンケート	基礎的知識を習得する
8月		
9月	講演会	講演会の内容も確認しながら、理解を深める
10月	講演会	講演会の内容も確認しながら、理解を深める
11月	講演会	講演会の内容も確認しながら、理解を深める
12月	進路希望調査と興味のある分野のアンケート	講演会の内容も確認しながら、理解を深める
1月	進路先における事前指導	それぞれの進路先へ進むにあたっての指導
2月	社会人におけるマナー等の指導	それぞれの進路先へ進むにあたっての指導
3月	まとめ	年間のまとめ

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	1年次	4	北嶋　晴香

科目の目標	基本的な犬の取り扱い方、犬の基本的な美容方法を学び技術修得とともに理解する。
使用教科書	美容道具一式、教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	犬の基本的な取り扱い方法を理解する	美容する上での注意点、犬の扱い方について説明を行う
5月	犬の基本的な取り扱い方法を理解しながらベー	ベーシックする上での道具の正しい持ち方、使い方を理解する
6月	ベーシックする上での道具の正しい持ち方、使い	グ、耳掃除、爪切り、ベイジング、ドライング)を中心に1匹に対し
7月	ベーシック方法を理解する　（ベーシック基礎Ⅰ）	ベーシックを中心に1匹に対して1～2人体制で行う
8月	夏季休暇	
9月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅱ）	門･お腹)を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、犬の保定の
10月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅱ）	門･お腹)を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、犬の保定の
11月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅲ）	門･お腹)を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、犬の保定の
12月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅲ）	お腹)を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、湯の適温度、ト
1月	ベーシック･クリッピング(足裏･肛門･お腹)を中心	足裏･肛門･お腹)を一通り1匹に対して1人体制で行いベーシ
2月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅳ）	足裏･肛門･お腹)を一通り1匹に対して1人体制で行いベーシ
3月	まとめ	1年間で学んだことの理解度を測る。 （テスト形式）

学習評価

評価の観点 ＼ 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	ドッグケアコースのみ

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B （トレーニング）	1年次	2	濵田のぞみ

科目の目標	犬の習性を知るとともに、基本的な犬の取り扱い方や、トレーニング方法を学ぶ。
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	犬の習性について① 犬の基本的なコントロール方法① グルーミング（健康チェック）	犬の習性を理解し、犬との関わり方を学ぶ。 グルーミングを通じて犬とのコミュニケーションをはかり、健康チェックの必要性について理解する。
5月	犬の習性について② 犬の基本的なコントロール方法② グルーミング（健康チェック）	犬の習性を理解し、犬との関わり方を学ぶ。 グルーミングを通じて犬とのコミュニケーションをはかり、健康チェックの必要性について理解する。
6月	犬の基本的なコントロール方法③ グルーミング（健康チェック）	リーダーウォークを通じて、犬を横に付けて歩く方法を学ぶ。
7月	犬の基本的なコントロール方法④ グルーミング（健康チェック）	リーダーウォークを通じて、犬を横に付けて歩く方法を学ぶ。
8月	夏季休暇	
9月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
10月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
11月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
12月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
1月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
2月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
3月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック） まとめ	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C （ドッグマスター）	1年次	2	

科目の目標	犬の犬種や特徴、病気、栄養学、解剖学、行動心理などを学び、ドッグマスター検定の資格取得を目指す。
使用教科書	ドッグマスターハンドブック

月	学習内容	学習目標
4月	犬の犬種と特徴①	犬の種類や性格、特徴、原産国などを学ぶ。
5月	犬の犬種と特徴②	犬の種類や性格、特徴、原産国などを学ぶ。
6月	犬の解剖学①	犬の骨格や歯、犬種による耳や頭部、尾などの形や毛色など
7月	犬の解剖学②	犬の感覚器や泌尿器、生殖器について理解する。
8月	夏季休暇	
9月	犬のトレーニングについて	オビディエンストレーニングやワーキングドッグについて理解する。 （研B(トレーニング)の授業でも学ぶ）
10月	犬の病理学と栄養学	様々な犬の病気について学び、健康管理をするうえで必要な栄
11月	犬の行動心理	行動心理について学び、日頃の犬との関わりに役立てる。
12月	グルーミングとトリミング	犬を清潔かつ健康に保つために必要なグルーミングとトリミングに
1月	動物愛護	動物愛護法や捨て犬問題について学ぶ。
2月	まとめと復習①	過去問を繰り返し解く
3月	まとめと復習② ※検定試験	過去問を繰り返し解く

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D （動物飼養管理）	1年次	2	濵田のぞみ 北嶋　晴香

科目の目標	生き物を扱うことへの自覚と責任を持つ 犬の体調管理と飼育環境の整備 授業で学んだことの復習（トレーニング・トリミング）を行い、スキルアップを目指す。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	2年次	4	北嶋　晴香

科目の目標	犬のグルーミングの基本的なことブラッシング、ネイルカット、イヤーケア（耳毛抜き）をしっかりとできるように取り組み、その上で鋏、バリカンなどを用いてのカットの仕方など幅広く学習し、身につけてもらう。
使用教科書	美容道具一式、教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	犬体の基礎知識 ・犬体名称、骨格名称 ・傷病名、処置法、予防法	犬の犬体名称を理解させ、美容で起こりうる怪我や病気、その処置法や予防法についての講義を行い、美容学の基礎知識を身につける。
5月	プードルサマーカットの手順 プードルサマーカットモデル	プードルサマーカット手順とカット技法を理解させる。
6月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	ベーシック後、足回りを終えてからクリッパーを用いて「背バリ」を行い、クリッピング箇所を覚えながら行う。カットにおいては、2人体制でカットの流れを
7月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを2人体制で行う。
8月	夏季集中実習	プードルカットまでの一連の流れを1人体制で行う
9月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行う。
10月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行う。
11月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行う。
12月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い、作業時間を意識し、効率化を図りながら行う。
1月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い、作業時間を意識し、効率化を図りながら行う。
2月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	年間まとめ前として各自カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い作業時間。
3月	まとめ	まとめとして各自カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い作業時間、仕上がり内容を評価する

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	鋏やバリカンなどを用いる為、しっかりと集中して授業に取り組み怪我がないように取り組んでもらいたい。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トレーニング）	2年次	4	濵田のぞみ

科目の目標	オビディエンストレーニングの知識・技術を身に付けるとともに、身体障害者補助犬やアニマルセラピーについて学び、理解を深める。
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	オビディエンストレーニング（基礎）※復習	1年次に学んだことの復習
5月	オビディエンストレーニング（基礎） 身体障害者補助犬について①	身体障害者補助犬について学び、理解を深める。
6月	オビディエンストレーニング（基礎） 身体障害者補助犬について②	障害者補助犬（介助犬）のトレーニング方法について学ぶ。
7月	オビディエンストレーニング（基礎） ※夏季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
8月	夏季休暇	
9月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） アニマルセラピーについて①	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーについて理解する。 セラピー現場での犬のコントロール方法を学ぶ①
10月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） アニマルセラピーについて②	ハンドリング方法の理解と実践 セラピー現場での犬のコントロール方法を学ぶ①
11月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） アニマルセラピーについて③	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーについて理解する。 セラピー現場での犬のコントロール方法を学ぶ②
12月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） ※冬季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
1月	オビディエンストレーニング（基礎・応用）	ハンドリング方法の理解と実践
2月	オビディエンストレーニング（基礎・応用）	ハンドリング方法の理解と実践
3月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） ※検定試験	ハンドリング方法の理解と実践

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D （動物飼養管理）	2年次	2	濵田のぞみ 北嶋　晴香

科目の目標	生き物を扱うことへの自覚と責任を持つ 犬の体調管理と飼育環境の整備 授業で学んだことの復習（トレーニング・トリミング）を行い、スキルアップを目指す。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	3年次	4	北嶋　晴香

科目の目標	犬のグルーミングをはじめ、さまざまな犬種に対応できるよう鋏、クリッパーの応用技術を身につける
使用教科書	トリマーのためのベーシックテクニック 緑書房 美容道具一式

月	学習内容	学習目標
4月	ベーシック、カッティング	2年次で学んだことを復習し、各項目を見つめ直していく
5月	ベーシック、カッティング	各項目を確認し、犬に負担を少なくすることを意識し、手順をしっかりと把握し要領よく進行していくことを学ぶ
6月	ベーシック、カッティング	1人で複数の犬を用い時間をかけすできるだけ犬の負担を少なくできるよう進め、技量と体力、工夫を身につける
7月	ベーシック、カッティング	を少なくし、技量と工夫を身につけ犬の体全体のバランスを見極める。
8月	夏季集中実習	シュナウザーカットまでの一連の流れを1人体制で行う。
9月	ベーシック、カッティング	タックスやポメラニアンなど小型犬を複数対応できるよう技量と工夫を身につける
10月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	全体カットを行った上で、1つのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方をウィッグを使っ
11月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	全体カットを行った上で、1つのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方を実際に犬を使っ
12月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	総まとめに向けてカッティング、クリッピングの見直しを行う
1月	まとめ	基本カット、犬種に対応したカットを把握し、技量を身につけ犬の負担を少なくするために無駄のない対応ができるようカッティング、クリッピング法
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	鋏やバリカンなどを用いる為、しっかりと集中して授業に取り組み怪我がないように取り組んでもらいたい。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トレーニング）	3年次	4	濵田のぞみ

科目の目標	担当犬との信頼関係の構築 クリッカーを使用したトレーニング方法の理解と、訓練技術の習得 アニマルセラピーの必要性について理解する
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	クリッカートレーニングの理論について① 実践トレーニング（クリッカー） アニマルセラピーについて①	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
5月	クリッカートレーニングの理論について② 実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） アニマルセラピーについて②	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
6月	クリッカートレーニングの理論について③ 実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習①	ハンドリング方法の理解と実践
7月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※夏期集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
8月	夏季休暇	
9月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）	ハンドリング方法の理解と実践
10月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習②	ハンドリング方法の理解と実践
11月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）	ハンドリング方法の理解と実践
12月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※冬季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
1月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習③ まとめ	ハンドリング方法の理解と実践
2月	検定試験	
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	3年次	4	北嶋　晴香

科目の目標	犬のグルーミングをはじめ、さまざまな犬種に対応できるよう鋏、クリッパーの応用技術を身につける
使用教科書	トリマーのためのベーシックテクニック 緑書房 美容道具一式

月	学習内容	学習目標
4月	ベーシック、カッティング	2年次で学んだことを復習し、各項目を見つめ直していく
5月	ベーシック、カッティング	各項目を確認し、犬に負担を少なくすることを意識し、手順をしっかりと把握し要領よく進行していくことを学ぶ
6月	ベーシック、カッティング	1人で複数の犬を用い時間をかけすできるだけ犬の負担を少なくできるよう進め、技量と体力、工夫を身につける
7月	ベーシック、カッティング	を少なくし、技量と工夫を身につけ犬の体全体のバランスを見極める。
8月	夏季集中実習	シュナウザーカットまでの一連の流れを1人体制で行う。
9月	ベーシック、カッティング	タックスやポメラニアンなど小型犬を複数対応できるよう技量と工夫を身につける
10月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	全体カットを行った上で、1つのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方をウィッグを使っ
11月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	全体カットを行った上で、1つのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方を実際に犬を使っ
12月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	総まとめに向けてカッティング、クリッピングの見直しを行う
1月	まとめ	基本カット、犬種に対応したカットを把握し、技量を身につけ犬の負担を少なくするために無駄のない対応ができるようカッティング、クリッピング法
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	鋏やバリカンなどを用いる為、しっかりと集中して授業に取り組み怪我がないように取り組んでもらいたい。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B （トレーニング）	3年次	4	濵田のぞみ

科目の目標	担当犬との信頼関係の構築 クリッカーを使用したトレーニング方法の理解と、訓練技術の習得 アニマルセラピーの必要性について理解する
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	クリッカートレーニングの理論について① 実践トレーニング（クリッカー） アニマルセラピーについて①	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
5月	クリッカートレーニングの理論について② 実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） アニマルセラピーについて②	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
6月	クリッカートレーニングの理論について③ 実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習	ハンドリング方法の理解と実践
7月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※夏季集中実習	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）※夏期集中実習
8月	夏季休暇	
9月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）
10月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習	ハンドリング方法の理解と実践
11月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス）
12月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※冬季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
1月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習 まとめ	ハンドリング方法の理解と実践
2月	検定試験	
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D （動物飼養管理）	3年次	2	濵田のぞみ 北嶋　晴香

科目の目標	生き物を扱うことへの自覚と責任を持つ 犬の体調管理と飼育環境の整備 授業で学んだことの復習（トレーニング・トリミング）を行い、スキルアップを目指す。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	1年次	2	長尾　邦弘

科目の目標	マイコンを用いた電子工作を基に、機械制御やプログラミングの知識・技術の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、Arduino（マイコン）など

月	学習内容	学習目標
4月	アルゴリズムとは？プログラムの基本構造	アルゴリズムとは？プログラムの基本構造
5月	arudinoの開発環境の構築	プログラム開発に必要な開発環境の構築方法を学ぶ
6月	電子回路基礎	電源・抵抗・LEDなどの基本的電子部品について知る
7月	実習1　LED点灯	回路を実際に作ってLEDを点灯させ、電子回路の基礎を学ぶ
8月		
9月	実習2　LED点滅	回路を作成し、プログラムを開発する
10月	実習2　LED点滅	編集・コンパイル・デバッグ・アップロード・実行の一連を行う
11月	コンピュータのハードウエア構成	5大装置・容量の単位・速度の単位を知る
12月	コンピュータの内部処理原理	2進数・16進数の考え方を学び、コンピュータの動作原理を知る
1月	実習3　スイッチの追加	IFステートメントを使った分岐構造を学ぶ
2月	実習3　スイッチの追加	IFステートメントを使った分岐構造を学ぶ
3月	実習4　押しボタン式信号の作成	一年間学んだ知識を集めて完成を目指す

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	1年次	2	神谷　卓敬

科目の目標	アプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法を習得し、今後の学校生活に有用な日本語ワープロソフトの利用に慣れる。また各級の日本語ワープロ検定試験を受験し、資格取得を目指す。
使用教科書	パソコン、Word 2013、しっかり学ぶWord標準テキスト など

月	学習内容	学習目標
4月	【Word入門】 ・Windowsの起動と終了 ・Wordの起動と終了	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める。
5月	【Word入門】 ・文章の入力 ・入力の訂正	文章入力の基本操作について学習する。
6月	【Word入門】 ・文章の入力 ・入力の訂正	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する。
7月	【日本語ワープロ検定の復習】	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
8月		
9月	【Word基本】 ・表の作成と編集 ・行・列の挿入	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する。
10月	【Word基本】 ・図形描画 ・色の変更	Wordの図形描画機能の基本操作について学習する。
11月	【Word基本】 ・クリップアート(イラスト)の挿入 ・クリップアートのサイズ変更と移動	Wordのクリップアート機能の基本操作について学習する。
12月	【Word基本】 ・ワードアートの挿入 ・ワードアートの編集	Wordのワードアート機能やページ罫線などの基本操作について学習する。
1月	【Word応用】 ・グラフの挿入とデータの編集 ・グラフのレイアウト変更	Wordのグラフ挿入の基本操作について学習する。
2月	・差し込み印刷 ・DTP機能の活用　　など	Wordの差し込み印刷やDTP機能の基本操作について学習する。
3月	まとめ	一年間通して学習した内容について復習する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	・パソコンコースのみの開講です。 ・各種検定試験の受験は予定であり、変更もあります。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	1年次	2	髙村　健太

科目の目標	HTMLやCSSについて学び、Webサイトの制作に関わる知識・技術の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、Life is Tech レッスン　など

月	学習内容	学習目標
4月	Webサイトの構成	Webサイトの基本的な構成について学ぶ。
5月	Htmlの基本①	Htmlの基本的な構成・構文について学ぶ。
6月	Htmlの基本②	Htmlの基本的な構成・構文について学ぶ。
7月	Htmlの基本③	Htmlの基本的な構成・構文について学ぶ。
8月		
9月	CSSの基本①	CSSの基本的な構成・構文について学ぶ。
10月	CSSの基本②	CSSの基本的な構成・構文について学ぶ。
11月	CSSの基本③	CSSの基本的な構成・構文について学ぶ。
12月	Html・CSSの復習	学習内容を復習し、知識・技術を定着させる。
1月	Webサイトの制作①	自らテーマを設定し、webサイトを制作する。
2月	Webサイトの制作②	自らテーマを設定し、webサイトを制作する。
3月	制作したサイトのプレゼンテーション	制作したwebサイトのプレゼンテーションを行う。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	1年次	2	丹羽　巧

科目の目標	CGやデザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、3DCGソフトウェア など

月	学習内容	学習目標
4月	動画編集①	動画編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
5月	動画編集②	動画編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
6月	3DCG制作①	3DCG制作ソフトの基本的な操作を学ぶ。
7月	3DCG制作②	3DCG制作ソフトを用い、作品を制作する。
8月		
9月	学習内容の復習 3DCG制作③	学期の学習内容を復習する。 3DCG制作ソフトを用い、作品を制作する。
10月	3DCG制作④	3DCG制作ソフトを用い、作品を制作する。
11月	プログラミング①	ゲーム制作に必要なプログラミングの基礎を学ぶ。
12月	プログラミング②	ゲーム制作に必要なプログラミングの基礎を学ぶ。
1月	学習内容の復習 ゲーム制作①	2学期の学習内容を復習する。 3DCGとプログラミングを用い、ゲーム制作をする。
2月	ゲーム制作②	3DCGとプログラミングを用い、ゲーム制作をする。
3月	ゲーム制作②	3DCGとプログラミングを用い、ゲーム制作をする。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	2年次	2	長尾　邦弘

科目の目標	マイコンを用いた電子工作を基に、機械制御やプログラミングの知識･技術の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、Arduino(マイコン) など

月	学習内容	学習目標
4月	昨年の復習　押しボタン式信号機の作成	昨年の学習内容を復習し今年度につなげる
5月	コンピュータのハードウエア構成	5大装置･容量の単位･速度の単位を知る
6月	コンピュータの内部処理原理	2進数･16進数の考え方を学び、コンピュータの動作原理を知る
7月	変数の使い方	プログラムの基礎知識変数を学び使えるようにする
8月		
9月	実習1　ブザーを鳴らす	時間計測の方法と条件判断のプログラミングを学ぶ
10月	実習2　メロディの作成	音を作る原理を学び、各音の周波数を知る
11月	実習2　メロディの作成	実際にメロディを作成する
12月	実習3　カウンタの利用	時間の計測方法として、カウンタを利用する方法を学ぶ
1月	実習3　カウンタの利用	時間の計測方法として、カウンタを利用する方法を学ぶ
2月	実習4　ラーメンタイマ製作	今まで学んだ内容を組み合わせてラーメンタイマを作る
3月	実習4　ラーメンタイマ製作	今まで学んだ内容を組み合わせてラーメンタイマを作る

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	2年次	2	髙村　健太

科目の目標	様々な検定取得を通して、アプリケーションソフトの応用的な操作方法を習得していく。また、コンピュータ関係の専門的な知識の必要性を理解し、基礎的な知識を習得する。
使用教科書	パソコン、Word 2013、Excel 2013、PowerPoint 2013など

月	学習内容	学習目標
4月	1学年の復習	
5月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 ・Word,Excelの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
6月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 ・Word,Excelの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
7月	【情報処理技能検定(表計算)】 ・Word,Excelの操作技能に関する検定の対策 ・検定試験の実施	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
8月		
9月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握す
10月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
11月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
12月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
1月	【文書デザイン検定】 【ホームページ作成検定】 ・Word,web制作の操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
2月	【文書デザイン検定】 【ホームページ作成検定】 ・Word,web制作の操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
3月	【文書デザイン検定】 【ホームページ作成検定】 ・Word,web制作の操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 (ノート、作品等)	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	2年次	2	丹羽　巧

科目の目標	HTMLやCSSについて学び、Webサイトの制作に関わる知識・技術の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、Life is Tech レッスン　など

月	学習内容	学習目標
4月	1学年の復習	Webサイトの基本的な構成について復習する。
5月	Html・CSSの応用①	Html・CSSの応用的な構成・構文について学ぶ。
6月	Html・CSSの応用②	Html・CSSの応用的な構成・構文について学ぶ。
7月	Html・CSSの応用③	Html・CSSの応用的な構成・構文について学ぶ。
8月		
9月	JavaScriptの基本①	JavaScriptの基本的な構成・構文について学ぶ。
10月	JavaScriptの基本②	JavaScriptの基本的な構成・構文について学ぶ。
11月	JavaScriptの基本③	JavaScriptの基本的な構成・構文について学ぶ。
12月	JavaScriptの復習	学習内容を復習し、知識・技術を定着させる。
1月	Webサイトの制作①	自らテーマを設定し、webサイトを制作する。
2月	Webサイトの制作②	自らテーマを設定し、webサイトを制作する。
3月	制作したサイトのプレゼンテーション	制作したwebサイトをプレゼンする。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	2年次	2	丹羽　巧

科目の目標	CGやデザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法を習得を目指す。
使用教科書	パソコン、画像編集ソフトウェア　など

月	学習内容	学習目標
4月	イラスト制作の基礎①	イラスト制作ソフトの基本操作について学ぶ。
5月	イラスト制作の基礎②	イラスト制作ソフトの基本操作について学ぶ。
6月	イラスト制作①	テーマを設定し、イラストを制作する。
7月	イラスト制作② プレゼンテーション	制作物のプレゼンテーションを行う。
8月		
9月	画像編集基礎①	画像編集ソフトの基本操作について学ぶ。
10月	画像編集基礎②	画像編集ソフトの基本操作について学ぶ。
11月	作品制作①	テーマを設定し、画像編集ソフトを用いた作品を制作する。
12月	作品制作② プレゼンテーション	制作物のプレゼンテーションを行う。
1月	デザイン基礎①	画像編集ソフトを用いて、デザインについて学ぶ。
2月	デザイン基礎②	画像編集ソフトを用いて、デザインについて学ぶ。
3月	作品制作③ プレゼンテーション	制作物のプレゼンテーションを行う。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	3年次	2	長尾　邦弘

科目の目標	マイコンを用いた電子工作を基に、機械制御やプログラミングの知識・技術の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、Arduino（マイコン）など

月	学習内容	学習目標
4月	昨年の復習　押しボタン式信号機の作成	昨年の学習内容を復習し今年度につなげる
5月	変数の使い方	プログラムの基礎知識変数を学び使えるようにする
6月	実習1　ブザーを鳴らす	時間計測の方法と条件判断のプログラミングを学ぶ
7月	実習2　メロディの作成	音を作る原理を学び、各音の周波数を知る
8月		
9月	実習2　メロディの作成	実際にメロディを作成する
10月	実習3　カウンタの利用	時間の計測方法として、カウンタを利用する方法を学ぶ
11月	実習3　カウンタの利用	時間の計測方法として、カウンタを利用する方法を学ぶ
12月	実習4　ラーメンタイマ製作	今まで学んだ内容を組み合わせてラーメンタイマを作る
1月	実習4　ラーメンタイマ製作	今まで学んだ内容を組み合わせてラーメンタイマを作る
2月	自由製作	2年間学習した内容で自由に作品を製作する
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験（実習）	―	10	10	10	―
授業の観察（行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物（ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	3年次	2	髙村　健太

科目の目標	様々な検定取得を通して、アプリケーションソフトの応用的な操作方法を習得していく。また、コンピュータ関係の専門的な知識の必要性を理解し、基礎的な知識を習得する。
使用教科書	パソコン、Word 2013、Excel 2013、PowerPoint 2013など

月	学習内容	学習目標
4月	2学年の復習	
5月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 ・Word,Excelの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
6月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 ・Word,Excelの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
7月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 ・Word,Excelの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
8月		
9月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
10月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
11月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
12月	【日本語ワープロ検定】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	各種試験に関する基本操作について学び、試験対策に関して把握する。
1月	各種検定試験の復習	各種試験に関する基本操作について復習する。
2月	各種検定試験の復習	各種試験に関する基本操作について復習する。
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 (実習)	―	10	10	10	―
授業の観察 (行動、発言、発表)	20	―	―	―	―
提出物・成果物 (ノート、作品等)	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	3年次	2	丹羽　巧

科目の目標	HTMLやCSSについて学び、Webサイトの制作に関わる知識・技術の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、Life is Tech レッスン　など

月	学習内容	学習目標
4月	1学年の復習	Webサイトの基本的な構成について復習する。
5月	Html・CSSの応用①	Html・CSSの応用的な構成・構文について学ぶ。
6月	Html・CSSの応用②	Html・CSSの応用的な構成・構文について学ぶ。
7月	Html・CSSの応用③	Html・CSSの応用的な構成・構文について学ぶ。
8月		
9月	JavaScriptの基本①	JavaScriptの基本的な構成・構文について学ぶ。
10月	JavaScriptの基本②	JavaScriptの基本的な構成・構文について学ぶ。
11月	JavaScriptの基本③	JavaScriptの基本的な構成・構文について学ぶ。
12月	JavaScriptの復習	学習内容を復習し、知識・技術を定着させる。
1月	Webサイトの制作①	自らテーマを設定し、webサイトを制作する。
2月	Webサイトの制作②	自らテーマを設定し、webサイトを制作する。
3月	制作したサイトのプレゼンテーション	制作したwebサイトをプレゼンする。

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験（実習）	―	10	10	10	―
授業の観察（行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物（ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	3年次	2	丹羽　巧

科目の目標	卒業課題を通じて、パソコン等に関する知識･技能を習得していく。
使用教科書	パソコン　など

月	学習内容	学習目標
4月	【卒業課題】 ･卒業課題の内容決定 ･ソフトウェア作成分野 （ゲーム制作等） ･ハードウェア作成分野	1年間を通して、パソコンに関する知識･技能を深めたい内容を決めていく。
5月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
6月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
7月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
8月		
9月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
10月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
11月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
12月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
1月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
2月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。
3月	【卒業課題】 ･卒業課題の取り組み	各自の卒業課題の内容の知識･技能を習得し、理解を深める。

学習評価

	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解	出席状況
試験（実習）	―	10	10	10	―
授業の観察（行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物･成果物（ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	･パソコンコースのみの開講です。 ･各種検定試験の受験、作品展示などは予定であり、変更もあります。 ･その他、ソフトウェアに関する校外学習を実施する場合もあります。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅠA	1年次	7	

科目の目標	主に文法の力を伸ばしながら、初級の日本語(JLPT N4レベル)を総合的に身につける 相手の言いたいことを理解することができるようになる 自分が伝えたいことを表現することができるようになる ※本科目は、日本語ⅠBと連携しながら、会話も扱う
使用教科書	主教材:『文化　初級日本語Ⅰ』　『文化　初級日本語Ⅱ』 副教材:『文化　初級日本語Ⅰ　練習問題集』『文化　初級日本語Ⅱ　練習問題集』

月	学習内容	学習目標
4月	『文化　初級日本語Ⅰ』1課～3課	・簡単な自己紹介ができる。 ・時の表現(時間、曜日、月日)を使って、銀行、店などの営業時間や学校のスケジュールについて話せる。 ・動詞のます形(現在、過去)を学習し、自分の行動について話せる。 ・疑問詞(何、どこ、いつ、何時)を学習し、質問したり、答えたりできる。 ・名前のわからない物、何かわからない物について質問したり、答えたりできる。 ・誰の物かわからない物について、その持ち主を尋ねたり、答えたりできる。
5月	『文化　初級日本語Ⅰ』4課～7課	・形容詞と指示詞を使って身近にある物の持ち主を尋ねたり、答えたりできる ・形容詞を使って、物の特徴や様子を質問たり、答えたりできる ・場所や位置を表す表現を使って事物の存在、所在が説明できる ・自分の趣味や嗜好について話せる ・自分の身の回りの物の形状が説明できる
6月	『文化　初級日本語Ⅰ』8課～11課	・形容詞と名詞の過去形を使って、過去の出来事の様子や感想を述べることができる。 ・形容詞の接続「～くて」「～で」、逆接の表現「～が」を使って、物の様子や感想を述べることができる ・動詞のて形を使って、依頼したり許可を求めたりできる ・学校の規則や簡単な機械の使い方について質問できる。また、その説明を聞いて理解できる
7月	『文化　初級日本語Ⅰ』12課，13課	・形容詞の変化の形「～なる」を使って、物事の変化について述べられる ・基本体を学習し、それを使って簡単なメモが取れる ・自分をとりま(生活環境)についての感想や意見を述べることができる ・簡単なインタビューをし、発表できる
8月	夏季休暇	
9月	『文化　初級日本語Ⅰ』14課～17課	・基本体過去を学習し、基本体を使った日記などまとまった分掌を読んで理解し、書くことができる ・比較表現を使って身近なものについて話せる ・病院で自分の症状が説明できる ・医師や看護師、薬剤師の簡単な説明が理解できる ・可能形を使って、能力や状況を説明したり、質問したりできる ・ある事柄について自分の経験の有無が話せる
10月	『文化　初級日本語Ⅰ』18課～20課	・人を誘うことができる。また、誘いに応じたり、断ったりできる。 ・伝聞表現を使い、人に情報が伝えられる。 ・人の服装について、簡単に述べることができる。 ・不注意などで起こってしまったことが説明できる。 ・目的地への行き方を聞いて理解できる。 ・意志の表現を使って予定や計画を述べることができる。 ・卒業後の進路について質問に答えたり、説明したりできる。
11月	『文化　初級日本語Ⅰ』21課～24課	・ホームステイなどで日本の家庭を訪問した時のマナーを知る。 ・「～たほうがいい」「～なくてもいい」などを使って、アドバイスをしたり、求めたりできる。 ・「～そう」を使って、物の外見からの印象や様子から判断したことなどを述べることができる。 ・第三者の希望や願望が相手に伝えられる。 ・「あげる」「もらう」「くれる」を使って物のやりとりが表現できる。 ・フォーマル、インフォーマルの使い分けを理解する。 ・インフォーマルな表現を使って友達を誘うなどの簡単な会話ができる。
12月	『文化　初級日本語Ⅰ』25課	・自動詞と他動詞の基本的な使い分けを理解し、適切な場面で使うことができ
1月	『文化　初級日本語Ⅰ』26課～29課	・物事の状態を表す「～ている」を使って、相手に注意を促すことができる。 ・引っ越しの準備や手続きなどを知る。 ・「～ように」「～ておく」を使って、何かをするための準備について、説明やアドバイスができる。 ・日本の学校に進学するための準備(オープンキャンパスなど)について知る ・面接試験について知る ・授受表現を使って、誰かにしてもらったことについて述べることができる ・授受表現を使って、人から受けた好意に対してお礼を述べることができる ・親疎の関係、社会的立場での上下関係を理解し、物や好意の授受について待遇表現を使って話すことができる ・「～ように」している」を使って、日頃努力していることが話せる
2月	『文化　初級日本語Ⅰ』31課～34課	・「～ようだ／みたいだ」を使って、根拠をもとにした主観的な判断を述べることができる。 ・受身形を使って、迷惑に感じた体験などが話せる ・理由を述べて、適切に謝ることができる。 ・受身形を使って述べられた物についての説明が理解できる ・ある人物の生い立ちに関するインタビューを聞いて理解できる ・「～たらどうですか」を使って、提案やアドバイスができる ・条件を表す表現を「～なら」を使って、アドバイスができる
3月	『文化　初級日本語Ⅰ』まとめ、(30課)	・これまでに学んだことを復習し、表現することができる

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	—	—	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	—	—	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅠB	1年次	6	

科目の目標	主に語彙の力を伸ばしながら、初級の日本語(JLPT N4レベル)を総合的に身につける 相手の言いたいことを理解することができるようになる 自分が伝えたいことを表現することができるようになる ※本科目は、日本語ⅠAと連携しながら、聴解・読解・作文も扱う
使用教科書	主教材:『文化　初級日本語Ⅰ』　『文化　初級日本語Ⅱ』 副教材:『文化　初級日本語Ⅰ　練習問題集』　『文化　初級日本語Ⅱ　練習問題集』

月	学習内容	学習目標
4月	『文化　初級日本語Ⅰ』 1課～3課	・簡単な自己紹介ができる。 ・時の表現(時間、曜日、月日)を使って、銀行、店などの営業時間や学校のスケジュールについて話せる。
5月	『文化　初級日本語Ⅰ』 4課～7課	・形容詞と指示詞を使って身近にある物の持ち主を尋ねたり、答えたりできる ・形容詞を使って、物の特徴や様子を質問したり、答えたりできる ・場所や位置を表す表現を使って事物の存在、所在が説明できる
6月	『文化　初級日本語Ⅰ』 8課～11課	・形容詞と名詞の過去形を使って、過去の出来事の様子や感想を述べることができる。 ・形容詞の接続「～くて」「～で」、逆接の表現「～が」を使って、物の様子や感
7月	『文化　初級日本語Ⅰ』 12課，13課	・形容詞の変化の形「～なる」を使って、物事の変化について述べられる ・基本体を学習し、それを使って簡単なメモが取れる ・自分をとりまく生活環境についての感想や意見を述べることができる
8月	夏季休暇	
9月	『文化　初級日本語Ⅰ』 14課～17課	・基本体過去を学習し、基本体を使った日記などまとまった分掌を読んで理解し、書くことができる ・比較表現を使って身近なものについて話せる
10月	『文化　初級日本語Ⅰ』 18課～20課	・人を誘うことができる。また、誘いに応じたり、断ったりできる。 ・伝聞表現を使い、人に情報が伝えられる。 ・人の服装について、簡単に述べることができる。
11月	『文化　初級日本語Ⅰ』 21課～24課	・ホームステイなどで日本の家庭を訪問した時のマナーを知る。 ・「～たほうがいい」「～なくてもいい」などを使って、アドバイスをしたり、求めたりできる。
12月	『文化　初級日本語Ⅰ』 25課	・自動詞と他動詞の基本的な使い分けを理解し、適切な場面で使うことができ
1月	『文化　初級日本語Ⅰ』 26課～29課	・物事の状態を表す「～ている」を使って、相手に注意を促すことができる。 ・引っ越しの準備や手続きなどを知る。 ・「～ように」「～ておく」を使って、何かをするための準備について、説明やアドバ
2月	『文化　初級日本語Ⅰ』 30課～34課	・「～ようだ／みたいだ」を使って、根拠をもとにした主観的な判断を述べることができる。 ・受身形を使って、迷惑に感じた体験などが話せる
3月	『文化　初級日本語Ⅰ』 まとめ	・これまでに学んだことを復習し、表現することができる

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅠC	1年次	2	

科目の目標	基本的な漢字(JLPT N4･N3レベル)を学びながら、語彙の力を身につける 自分が伝えたいことを、漢字を使って文で表現できるようになる 漢字を含む文章が理解できるようになる
使用教科書	『使って覚える楽しい漢字1』

月	学習内容	学習目標
4月	『使って覚える楽しい漢字1』 1課、2課	･N5レベルの漢字の習得 1課「数字･お金」、2課「曜日･生年月日」
5月	『使って覚える楽しい漢字1』 3課、4課	･N5･N4レベルの漢字の習得 3課「位置･方角」、4課「時間の表現」
6月	『使って覚える楽しい漢字1』 5課、6課	･N4レベルの漢字の習得 5課「自然･動物」、6課「体の部分①」
7月	『使って覚える楽しい漢字1』 7課	･N4レベルの漢字の習得 7課「学校」
8月	夏季休暇	
9月	『使って覚える楽しい漢字1』 8課、9課	･N4レベルの漢字の習得 8課「家族」、9課「言語･色」
10月	『使って覚える楽しい漢字1』 10課～12課	･N4･N3レベルの漢字の習得 10課「動詞①」、11課「形容詞①」、 12課「形容詞②」
11月	『使って覚える楽しい漢字1』 13課～15課	･N4･N3レベルの漢字の習得 13課「天気」、14課「交通」、15課「動詞②」
12月	『使って覚える楽しい漢字1』 16課	･N4･N3レベルの漢字の習得 16課「駅･通勤」
1月	『使って覚える楽しい漢字1』 17課、18課	･N4･N3レベルの漢字の習得 17課「道」、18課「漢字ネットワーク①」
2月	『使って覚える楽しい漢字1』 19課、20課	･N3･N2レベルの漢字の習得 19課「漢字ネットワーク②」、 20課「漢字ネットワーク③」
3月	まとめ	学んだ漢字を復習し、運用できるようにする

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	―	―	50	10	10
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語活動	1年次	1	

科目の目標	日本の文化や習慣などを知る 学校生活に必要な知識やルールを学ぶ
使用教科書	本校作成教材

月	学習内容	学習目標
4月 5月	生徒便覧を読む	･学校生活のルールを知る
6月	非常事態に備える	･消火器、非常口、AEDの場所や使い方を知る ･水消火器を使ってみる ･教員や職員にインタビューしながら見取り図を補完し、防災マップを完成させる
7月	暑中見舞いを書く 地域の方との交流を深める	･手紙書き方、郵送方法などを知る ･地域の活動を通して、活きた日本語を使用する機会を設ける
8月	夏季休暇	
9月	校外学習に向けて	･校外学習で使う日本語を理解し、適切な行動がとれるように準備する
10月 11月	職業調べ	･職業について知り、将来について考え始める
12月 1月	作文とスピーチコンテスト	･スピーチコンテストの前段階として、自分の経験を言語化する ･スピーチコンテストを実施し、人前で発表するという体験をする
2月 3月	新入生(後輩)に学校案内をしよう	･学校紹介、案内の準備 ⇒次年度、後輩を案内する

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	80	40	80	24	80	16	80
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	20	4	20
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅡA	2年次	6	

科目の目標	四技能を総合的に学びながら、中級の日本語(JLPT N3レベル)を身につける 日常生活の身近なテーマだけでなく、社会や文化に関するテーマついてより広く理解し、自分の意見を述べることができるようになる。
使用教科書	主教材:『みんなの日本語　初級Ⅱ』『みんなの日本語　初級Ⅱ　翻訳・文法解説』『文化中級1』 副教材:『みんなの日本語　初級Ⅱ　標準問題集』『文化中級1練習問題集』

月	学習内容	学習目標
4月	『みんなの日本語　初級Ⅱ』 41課～43課	・上下や親疎の関係をわきまえた授受表現を使うことができる。 ・丁寧な依頼ができる。 ・「ために」を用いて目的を述べることができる。 ・「～(の)に」を用いて、用途、評価、所要時間や経費などについて述べることができる。 ・「～そうです」を用いて、変化を起こす兆候や、外観の様子からその状態や性質を推察して述べることができる。 ・目的の行為を終えて、元の場所に戻ることを「～て来ます」を用いて述べることができる
5月	『みんなの日本語　初級Ⅱ』 44課、45課	・動作や程度が度を越し、望ましくない状態を「～すぎます」を用いて表すことができる。 ・行為の難易度を「～やすい／～にくいです」を用いて表すことができる。 ・形容詞や名詞を副詞的に使う表現「～く／～に」を用いることができる。 ・ある事態を想定し、その対処のし方を「～場合は」を用いて述べることができる。 ・「～のに」を用いて表すことができる。
6月	『みんなの日本語　初級Ⅱ』 46課、47課	・ある動作を、「～ところです」を用いて「直前」「進行中」「直後」のそれぞれの段階に焦点を当てて、述べることができる。 ・動作が終了してからあまり時間が経っていないという気持ちを、「～たばかりです」を用いて表すことができる。 ・話し手が自分自身で確信していることを、「～はずです」を用いて述べることができる。 ・「～そうです」を用いて、第三者から得た情報をそのまま伝えることができる。 ・「～ようです」を用いて自分の五官を通して総合的にとらえたその場の状況に基づく判断を述べることができる。
7月	『文化中級1』 1課	・自分の日本語学習について振り返り、いろいろな学習方法を知る。 ・ある状況を仮定して、自分の考えや願望、公開の気持ちなどが表せるようになる。
8月	夏季休暇	
9月	『文化中級1』 2課 『みんなの日本語　初級Ⅱ』 49・50課	・話の進め方を意識したり、相手の都合を配慮したりしながら依頼できるようになる。 ・言葉だけでなく、話の進め方や態度も含めて、敬語に対する意識を高める。 ・相手との関係を考えて、言葉を使い分けられるようになる。
10月	『文化中級1』 3課	・現在および過去の人やものの様子を理解できるようになる。
11月	『文化中級1』 4課	・意志を中心とした自分の気持ちを表すことができるようになる。 ・性格や行動の傾向を含めた自己紹介ができるようになる。
12月 1月	『文化中級1』 5課 『みんなの日本語　初級Ⅱ』 48課	・行為の強制や容認・許可を使役文を用いて表すことができる。 ・許可を求める場合に、使役動詞を用いて丁寧に述べることができる。 ・受身文の視点を理解し、文意を正しく読みとれるようになる。 ・日常会話で身近なことについて感想が述べられるようになる。
2月 3月	『文化中級1』 6課	・現在および過去のできごとが描写できるようになる。 ・名詞修飾の構造を知り、文章を正しく読み取れるようになる。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物 （ノート、作品等）	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅡB	2年次	1	

科目の目標	JLPT N3取得
使用教科書	主教材: 『日本語能力試験 N3 直前対策 ドリル＆模試 文字･語彙･文法』 Part1、Part2 模擬試験: オンラインハーフ模試(6，11，2月) 課題用: 『日本語能力試験 N3 直前対策 ドリル＆模試 文字･語彙･文法』Part3模擬試験 ※その他、適宜プリントを配布

月	学習内容	学習目標
4月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第1回、第2回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
5月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第3回、第4回 テーマ別ミニ特訓講座	
6月	オンラインハーフ模試	7月実施のJLPTに向けて ･試験の形式や問題に慣れる ･現状の実力を知る
7月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第5回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
8月	夏季休暇	
9月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第6回～第8回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
10月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第9回～第11回 テーマ別ミニ特訓講座	
11月	オンラインハーフ模試	12月実施のJLPTに向けて ･試験の形式や問題に慣れる ･現状の実力を知る
12月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第12回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
1月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第13回、第14回 テーマ別ミニ特訓講座	
2月	オンラインハーフ模試	JLPTに向けて ･試験の形式や問題に慣れる ･現状の実力を知る
3月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第15回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	80	40	80	24	80	16	80
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	20	6	20	4	20
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅡC	2年次	1	

科目の目標	教科や生活に必要となる漢字(JLPT N3、N2レベル)を学びながら、語彙の力を身につける 自分が伝えたいことを、漢字を使って文で表現できるようになる 漢字を含む文章が理解できるようになる
使用教科書	主教材:　『使って覚える楽しい漢字Ⅱ』 課題用教材:　『みんなの日本語　初級Ⅱ　漢字練習帳』

月	学習内容	学習目標
4月	『使って覚える楽しい漢字1』 21課、22課	21課「住居・申し込み」、22課「趣味」
5月	『使って覚える楽しい漢字1』 23課、24課	・N4・N3レベルの漢字の習得 23課「仕事・産業」、24課「季節」
6月	『使って覚える楽しい漢字1』 25課、26課	・N3・N2レベルの漢字の習得 25課「食事」、26課「安売り」
7月	『使って覚える楽しい漢字1』 27課	・N3・N2レベルの漢字の習得 27課「ごみ収集」
8月	夏季休暇	
9月	『使って覚える楽しい漢字1』 28課	・N3・N2レベルの漢字の習得 28課「体の部分②」
10月	『使って覚える楽しい漢字1』 29課、30課	・N3・N2レベルの漢字の習得 29課「病院」、30課「建物・場所」
11月	『使って覚える楽しい漢字1』 31課	・N3・N2レベルの漢字の習得 31課「町の中の表示①」
12月	『使って覚える楽しい漢字1』 復習	・N4～N2レベルの漢字の復習
1月	『使って覚える楽しい漢字1』 32、33課	・N3・N2レベルの漢字の習得 32課「町の中の表示②」 33課「お金・銀行」
2月	『使って覚える楽しい漢字1』 34課	・N3・N2レベルの漢字の習得 34課「形容詞③」
3月	『使って覚える楽しい漢字1』 復習	・N4～N2レベルの漢字の復習

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語活動	2年次	1	

科目の目標	日本の文化や習慣などを知る 学校生活に必要な知識やルールを学ぶ 進路について考え、必要な準備を行う
使用教科書	本校作成教材

月	学習内容	学習目標
4月	新入生に学校を案内しよう	・日本語を使って、学校案内ができる
5月	日本語コース交流会	・イベントの運営を通じて、コミュニケーションに必要な日本語を習得する
6月	非常事態に備える	・1年生で学習したことをしっかり復習して、非常事態に対応できる日本語力を定着させる
7月	地域の方との交流を深める	・地域の活動を通して、活きた日本語を使用する機会を設ける
8月	夏季休暇	
9月	修学旅行に向けて	・旅行の目的を理解し、適切な行動がとれるように日本語を理解する ・修学旅行で体験したことを作文する
10月	インターンシップ 進路に向けて	・どのような職業があるのかを知る ・先輩の話を聞いて、自分の将来をイメージする
11月		
12月		
1月	自分の国を紹介しよう	・母国と日本の違いを知り、それぞれの良さを理解し、今後の生活に生かす
2月	スピーチコンテスト	・自己の考え・主張を整理し、日本語で表現できる ・総合的な発信力を身につける
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	80	40	80	24	80	16	80
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	20	6	20	4	20
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅢA	3年次	5	

科目の目標	四技能を総合的に学びながら、中上級の日本語(JLPT N2レベル)を身につける 社会や文化に関するテーマついてより広く理解し、自分の意見を述べることができるようになる。
使用教科書	主教材:『文化中級Ⅱ』 副教材:『文化中級Ⅱ練習問題集』

月	学習内容	学習目標
4月	『文化中級Ⅱ』1課 「ニュースと新聞」	ニュースを聞いたり新聞を読んだりして理解できるようになる。また、出来事を文章でわかりやすく伝えることができる。
5月	『文化中級Ⅱ』2課 「世界旅行」	日本や世界の地理や観光地などを理解する。また、旅行先や自分の国を紹介することができる。
6月	『文化中級Ⅱ』3課 「異文化間コミュニケーション」	異文化間コミュニケーションで生じる誤解などを理解し、自分の気持ちをわかりやすく表現することができる。
7月	『文化中級Ⅱ』 復習	学んだ語彙や表現を使って、自分の意見を文章で表現することができる。
8月	夏季休暇	
9月	『文化中級Ⅱ』4課 「スポーツと余暇」	スポーツや余暇に関する記事を読み、理解することができる。また、対比の表現を使って、あるものの特徴を述べたり、自分の意見を述べたりできるようになる。
10月	『文化中級Ⅱ』5課 「日本の歴史」	日本の歴史について知り、日本史の講義を聞いて理解することができる。また、自分の国の歴史を調べ、まとめることができる。
11月	『文化中級Ⅱ』6課 「言葉と文化」	言葉の成り立ちについて知る。また、本などで調べたことをまとめて発表することができる。
12月	『文化中級Ⅱ』7課 「日本人と食生活」	日本の食文化について学ぶ。また、ひとつのものについて、いくつかの視点を盛り込んで書いたり、説明を聞いて理解し人に説明したりすることができるようになる。
1月		
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解
試験 (実習)	―	30	30	40
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	―	―	
提出物・成果物 (ノート、作品等)	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅢB	3年次	1	

科目の目標	JLPT N3／N2取得
使用教科書	主教材: 『日本語能力試験 N3 直前対策 ドリル＆模試 文字･語彙･文法』 Part1、Part2 『日本語能力試験 N2 直前対策 ドリル＆模試 文字･語彙･文法』 Part1、Part2 模擬試験: オンラインハーフ模試(6，11月) 課題用: 『日本語能力試験 直前対策 ドリル＆模試 文字･語彙･文法』 Part3模擬試験 ※その他、適宜プリントを配布

月	学習内容	学習目標
4月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第1回、第2回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3／N2の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
5月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第3回、第4回 テーマ別ミニ特訓講座	
6月	オンラインハーフ模試	7月実施のJLPTに向けて ･試験の形式や問題に慣れる ･現状の実力を知る
7月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第5回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3／N2の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
8月	夏季休暇	
9月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第6回～第8回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3／N2の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
10月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第9回～第11回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3／N2の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
11月	オンラインハーフ模試	12月実施のJLPTに向けて ･試験の形式や問題に慣れる ･現状の実力を知る
12月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第12回 テーマ別ミニ特訓講座	JLPT N3／N2の文字･語彙･文法を学び、問題が解けるようになる
1月	実践ドリル 文字･語彙、文法 第13回、第14回 テーマ別ミニ特訓講座	
2月		
3月		

学習評価

	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解	出席状況
試験(*実習)	―	10	10	10	―
授業の観察 (行動、発言、発表)	20	―	―	―	―
提出物･成果物 (ノート、作品等)	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。 JLPTのレベル(N3もしくはN2)は教員の助言のもと各自で選択する。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅢC	3年次	1	

科目の目標	中級(JLPT N3レベル)の漢字および語彙を学びながら、語彙の力を身につける 自分が伝えたいことを、様々な語彙を使って表現できるようになる 漢字を含む文章が理解できるようになる
使用教科書	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』

月	学習内容	学習目標
4月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 10回目、11回目	「肯定的な感情」「学校」に関する語彙を理解し、使えるようになる
5月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 12回目～14回目	「様々な問題」「お金」に関する語彙を理解し、使えるようになる
6月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 15回目、16回目	「仕事(就職や工場)」に関する語彙を理解し、使えるようになる
7月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 17回目	「仕事(オフィス)」に関する語彙を理解し、使えるようになる
8月	夏季休暇	
9月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 18回目～21回目	「量」「j時間」「動詞①」に関する語彙を理解し、使えるようになる
10月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 22回目～24回目	「動詞②」「思考」「話す」に関する語彙を理解し、使えるようになる
11月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 25回目～27回目	「い形容詞」「な形容詞」「副詞①」に関する語彙を理解し、使えるようになる
12月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 28回目	「副詞②」に関する語彙を理解し、使えるようになる
1月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 29回目、30回目	「カタカナの言葉」に関する語彙を理解し、使えるようになる
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解
試験 (実習)	―	30	30	40
授業の観察 (行動、発言、発表)	30	―	―	
提出物・成果物 (ノート、作品等)	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。 朝学習の時間にアプリを使って練習問題を解く。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語活動	3年次	1	

科目の目標	日本の文化や習慣などを知る 進路について考え、必要な準備を行う
使用教科書	本校作成プリント教材

月	学習内容	学習目標
4月	進路に向けて	・面接につかう語彙や表現を学ぶ ・履歴書を書く際の語彙や表現を学ぶ
5月		
6月	非常事態に備える	・1,2年生で学習したことをしっかり復習して、非常事態に日本語で対応する
7月	地域の方との交流を深める	・地域の活動を通して、活きた日本語を使用する機会を設ける
8月	夏季休暇	
9月	進路に向けて	・実践に即した面接練習を行う ・履歴書を書く
10月		
11月	卒業文集を作る	・3年間を振り返り、自分の経験や思いを日本語で表現できる
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験(*実習)	—	10	10	10	—
授業の観察 (行動、発言、発表)	20	—	—	—	—
提出物・成果物 (ノート、作品等)	5	5	5	5	—
出席等	—	—	—	—	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

学校法人　三重徳風学園

徳風高等学校　徳風技能専門学校

〒５１９－０１４５
三重県亀山市和賀町１７８９－４
TEL　０５９５－８２－３５６１
FAX　０５９５－８２－３５１１

名　前	